

**2019年度**

**神戸大学先端融合研究環  
人文・社会科学系融合研究領域  
実績報告書**

**神戸大学先端融合研究環**

# 目 次

## <研究プロジェクトの名称>

○新興経済諸国における政治・経済の停滞の原因と停滞からの脱出に 関する総合的研究	1
○持続可能な交通（Sustainable Transport）実現に関する研究	8
○歴史資料・企業資料のデータベース化、及び画像・テキストデータに 基づく歴史・実証・文理融合研究	12
○現代中国研究拠点	16
○メタ科学技術研究プロジェクト：方法・倫理・政策の総合的研究	21
○人文情報の文理融合研究と地域学創出	32
○移住・多文化・福祉政策に関する国際的研究拠点の形成	39
○市場経済の持続的成長可能性に関する研究	48
○貧困削減のための持続可能なコミュニティ開発	68

様式（年次報告書）

令和 2年 5月 9日

## 2019年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		新興経済諸国における政治・経済の停滞の原因と停滞からの脱出に関する総合的研究
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		経済学研究科・経済学専攻・吉井昌彦
当該年度	研究員数	6人（学術研究員，学振特別研究員（DC1, DC2は除く），外国人招へい研究員等）
	外部資金獲得実績	科学研究費補助金 29,250千円，受託研究経費 1,000千円，奨学寄附金 千円，その他（ 千円）
	特許出願件数	件，論文発表件数 9件，著書数 3件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
吉井 昌彦	経済学研究科・経済学専攻	プロジェクトリーダー（中東欧）
浜口 伸明	経済経営研究所	研究分担者（ラテンアメリカ）
大西 裕	法学研究科・政治学専攻	研究分担者（政治分析）
山崎 幸治	国際協力研究科・国際開発政策専攻	研究協力者（アジア）
佐藤 隆広	経済経営研究所	研究協力者（インド）
梶谷 懐	経済学研究科・経済学専攻	研究協力者（中国）

### 3. 研究成果の概要等について

\*継続用紙添付可、研究プロジェクトの研究、または関連の深い研究について、3ページ以内に簡潔にまとめて下さい。プロジェクト内の共同研究、他プロジェクトとの共同研究については積極的に記載してください。特に、海外の研究機関との共同研究については記載をお願いします。

本研究プロジェクトは、新興経済諸国における政治・経済の停滞の原因と停滞からの脱出に関する総合的研究を行うことを目的としている。新興経済諸国は、2000年代に入ると、BRICs ("Building Better Global Economic BRICs," Goldman Sachs, Global Economics Paper, No:66, 2001) に代表されるように、その経済成長の速さからもてはやされてきたが、2010年頃になると、政治的には、「アラブの春」、「イスラム国」等による北アフリカ、中東諸国の混乱、ロシアのプーチン大統領の下での独裁化、韓国、アジア諸国やブラジルにおける政権の混乱など不安定化要因が増し、経済的にも、中国の経済成長率の鈍化、石油・天然ガスなどの資源価格の低迷などを原因として成長ポテンシャルが弱まり、その評価は著しく棄損している。これらの問題は、政治・経済システム、教育問題などと合わせて、世界銀行が2007年に『東アジアのルネッサンス』で提示した「中所得国の罠 (middle income trap)」として知られている。本研究プロジェクトでは、「罠」の原因、「罠」から抜け出すための政策について、地域横断的かつ学際的な研究を行う。

2019年度は、研究分担者のうち吉井は理事・副学長、大西は法学研究科長(9月まで)、浜口は経済経営研究所長となり、また研究協力者のうち山崎も社会経済システムイノベーションセンター長となったため、グループとしての研究を行うことができず、個別に研究を進めざるをえなかった。その成果は以下に示すとおりであるが、科学研究費補助金基盤研究(A)および(B)による学外の研究者との共同研究、JSPS 二国間交流事業/共同研究セミナーによる共同研究を継続的に行った。

しかしながら、上述のように、主要メンバーが本部役員、部局長、センター長となり多忙で共同研究を継続できず、プロジェクトとしての科学研究費申請も不採択が続いてきた。また、メンバーには研究環の他のプロジェクトに関わっている者もあり、研究の重複・負担感があり、今後共同研究を継続することが難しいため、2019年度をもって本プロジェクトを終了することとした。

#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

##### [論文]

論文名：モルドヴァの経済発展戦略

著者名：吉井昌彦

掲載誌，巻，ページ：国民経済雑誌，221-2 巻，PP. 41-56，2020 年

論文名：ブラジル有権者の急な右旋回：市データを用いた 2018 年大統領選挙の分析

著者名：浜口伸明・河合沙織

掲載誌，巻，ページ：国民経済雑誌，219-6 巻，PP. 1-20，2019 年

論文名：Brand Agriculture and Economic Geography: When Are Highly Differentiated Products Sustainable in the Remote Periphery?

著者名：HAMAGUCHI Nobuaki, FUJITA Masahisa

掲載誌，巻，ページ：Review of Urban & Regional Development Studies, Vol. 31-3, pp. 169-202, 2019.

論文名：ブラジル経済社会の不安定性

著者名：浜口伸明

掲載誌，巻，ページ：比較経済体制研究，57-1 巻，PP. 15-25，2020 年

論文名：Residential Segregation, Access to Piped Water and Diarrhea among Children in Rural India”

著者名：YAMAZAKI Koji

掲載誌，巻，ページ：国民経済雑誌，220-5 巻，PP. 1-21，2019 年

論文名：Productivity Dynamics and Rural Industrialisation in India

著者名：SATO Takahiro, AGGARWAL Aradhna

掲載誌，巻，ページ：Journal of Interdisciplinary Economics, 32(1), pp. 23-46, 2019

論文名：インドにおけるフィンテックの展開：フィンテックがアンバンドリングを通じて銀行業に与える影響の考察

著者名：西尾 圭一郎・佐藤 隆広

掲載誌，巻，ページ：大銀協フォーラム研究助成論文集、pp. 1-20，2020 年

論文名：中国の「監視社会化」と市民社会の役割

著者名：梶谷 懐

掲載誌，巻，ページ：社会思想史学会年報、第 43 号、pp. 9-30、2019 年

論文名：中国経済のマクロ動向—積極的な財政政策と地方政府の制御は両立するか—  
著者名：梶谷懐  
掲載誌，巻， ページ：東亜、630号、pp. 30-39、2019年

[著書]

著 者：A・オスルンド（家本博一・吉井昌彦・池本修一共監訳）

著書名：資本主義はいかに築かれたか

—ロシア・中央アジア・中東欧での30年の経験から—

巻・ページ：PP. 1-528

発行所，発行年：文真堂、2020年

著 者：HAMAGUCHI Nobuaki, HOSONO Akio, and Alan Bojanic

著書名：Innovation with Spatial Impact: Sustainable Development of the  
Brazilian Cerrado

巻・ページ：ivi+1-192

発行所、発行年：Springer、2019年

著 者：梶谷懐・高口康太

著書名：幸福な監視国家・中国

巻・ページ：254

発行所、発行年：NHK 出版、2019年

## 5. 関連活動及び特記事項

(1) 外部資金等(外部資金名(種目), 代表者名, 研究タイトル, 当該年度の受入金額を記載)

○外部資金名: 科学研究費補助金

研究種目: 基盤研究(A)

代表者名: 大西裕

研究課題名: 選挙ガバナンスが正確な投票(CorrectVoting)に与える影響に関する研究

受入金額: 12,740千円

○外部資金名: 科学研究費補助金

研究種目: 基盤研究(A)

代表者名: 佐藤隆広

研究課題名: 南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク

受入金額: 8,320千円

○外部資金名: 科学研究費補助金

研究種目: 基盤研究(B)

代表者名: 山崎幸治

研究課題名: スリランカにおける紛争後の社会再建と貧困削減

受入金額: 2,080千円

○外部資金名: 科学研究費補助金

研究種目: 基盤研究(C)

代表者名: 佐藤隆広

研究課題名: ミクロデータからみたインドの人口・労働・不平等の長期動向

受入金額: 1,560千円

○外部資金名: 科学研究費補助金

研究種目: 挑戦的研究(萌芽)

代表者名: 大西裕

研究課題名: 実験アプローチによる行政組織の研究

受入金額: 2,080千円

○外部資金名: 科学研究費補助金

研究種目: 挑戦的研究(萌芽)

代表者名: 浜口伸明

研究課題名： 人口減少時代の地域再生と空間経済学

受 入 金 額： 2,470 千円

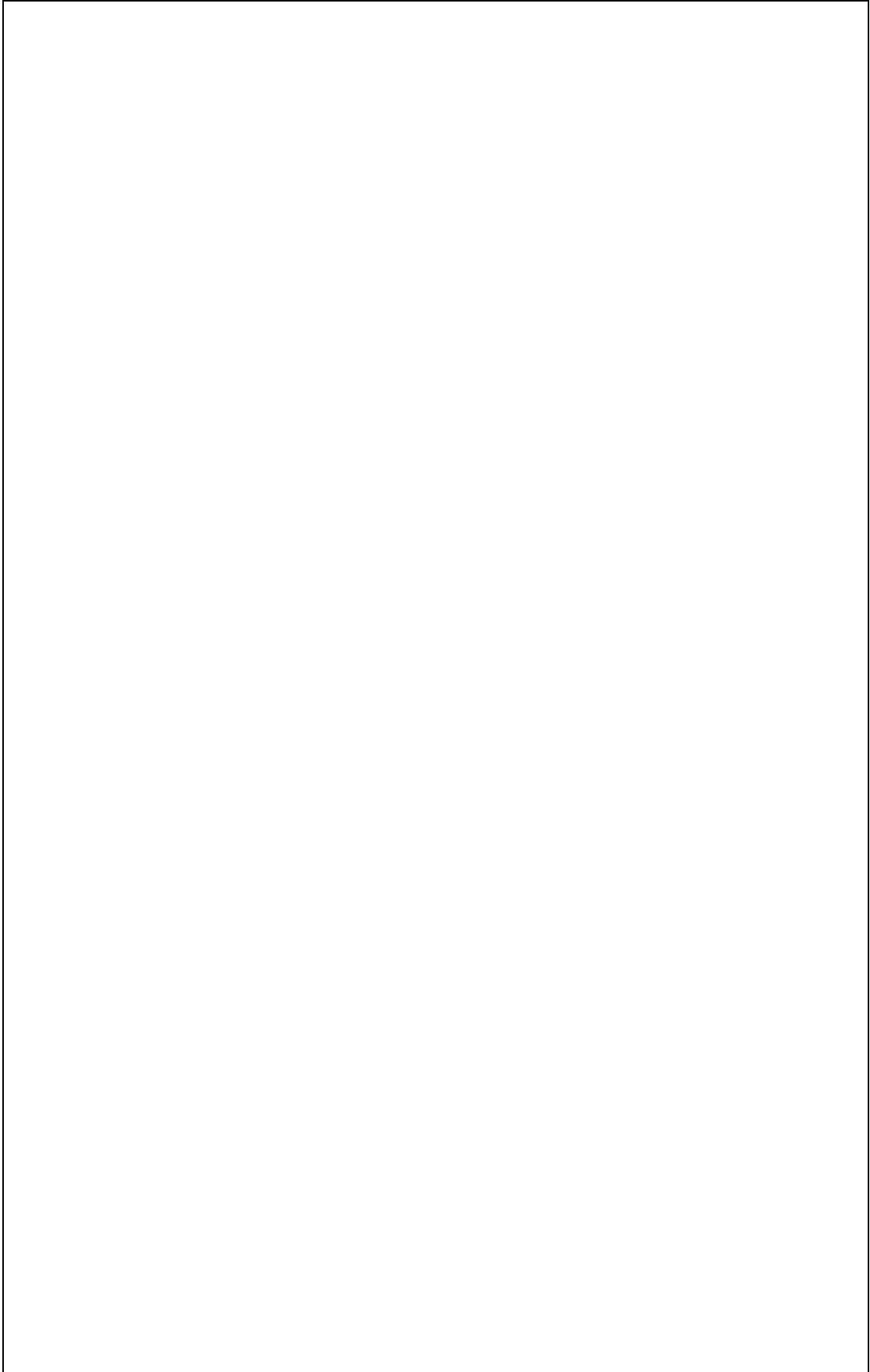
○外部資金名：受託(共同)型協力研究(JSPS 二国間交流事業/共同研究セミナー)

代表者名：吉井昌彦

研究題目：日 EU・EPA/FTA と韓国 FTA との比較分析による日 EU 経済協力の  
展望

受入金額：1,000 千万円





様式（年次報告書）

令和2年5月11日

## 2019年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		持続可能な交通(Sustainable Transport)実現に関する研究
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		経営学研究科・正司 健一
当該年度	研究員数	人（学術研究員，学振特別研究員（DC1, DC2 は除く），外国人招へい研究員等）
	外部資金獲得実績	科学研究費補助金 4,600 千円，受託研究経費 千円， 奨学寄附金 千円，その他（ 千円）
	特許出願件数	件， 論文発表件数 件， 著書数 件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
正司 健一	経営学研究科・経営学専攻	研究総括ならび交通経営における持続可能性の検討
水谷 文俊	神戸大学理事，経営学研究科	交通政策の経済分析
三古 展弘	経営学研究科・経営学専攻	交通者行動の分析
水谷 淳	海事科学研究科・海事科学専攻	交通産業の構造分析
酒井 裕規	海事科学研究科・海事科学専攻	交通企業の行動分析

### 3. 研究成果の概要等について

持続可能な交通（Sustainable Transport）の定義は一意に定まったものがあるわけではないが、そこに共通するのは、適切な費用負担のもと、効率的で、可能な範囲で複数の選択肢を持ちながら、社会経済活動をしっかりと支え、環境面でも持続可能性に配慮された交通システムといった考え方であり、近年の交通政策・交通学研究のキーコンセプトとなっている。本研究プロジェクトは、われわれがこれまで取り組んできた基盤的研究を発展させ、持続可能な交通を実現するための制度構築ならびにその運営に関する分析を進めることで、同分野の研究発展に資するとともに、実践的課題解決へつなげることをめざしている。

2019年度の具体的成果としては、例えば、サービスの生産局面だけでなくその設計についても自立的交通事業者に委ねることに多くの利点があることが明らかになるなか、公的補助なしで自立的に経営を維持させ、さらに鉄道以外の広範なサービス供給を通じて多様な価値創造も行い、経営を維持し続けていることで各国の研究者から注目されているわが国大手私鉄を対象として、需給調整規制の撤廃などの規制改革が鉄道事業経営、なかでもその経営戦略に与えた影響について研究したものがあつた。分析の結果、競争者の参入を容易にする規制改革よりも市場環境の変化に、より大きく影響を受けていると考えられること、各社は沿線価値向上を意識した鉄道の価値向上に変わらず努めていること、鉄道事業を中核とした事業全体で顧客が経験する価値向上に引き続き努めていることを明らかにした。それ以外にも、鉄道産業に対する構造改革や規制緩和がその需要面にもどのように影響を与えたか、発展途上国の乗用車トリップ生成モデルに関する論文を公表することができた。

さらに、16th International Conference on Competition and Ownership in Land Passenger Transport (Thredbo 16)、Air Transport Research Society 23rd World Conference、15th World Conference on Transport Research, Business and Creative Industries in East Asia といった国際学会・国際会議において、それぞれの研究成果を発表し、多くの有益なコメントを得ることができた。

なお2020年3月21日に海外から3名の本分野の著名研究者を招聘して開催予定だった国際会議は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて中止を余儀なくされたが、われわれの研究進展そのものには、幸い大きな影響は与えていない。一方で、交通政策分野の第一線の研究者のみならず、政策担当者、交通事業者・技術者が参加する、本分野における非常に重要な国際会議である International Conference on Competition and Ownership in Land Passenger Transport が、2021年9月神戸で開催することが正式決定し、その開催準備に着手した（なお2021年運営委員会の chair を三古教授が勤め、他の構成員も全員が運営委員会メンバーである）。

#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

[論文]

Car trip generation models in the developing world: data issues and spatial transferability

Bwambale, A., Choudhury, C.F., and Sanko, N. (国際共著)

*Transportation in Developing Economies*, 5(10), 2019. DOI: 10.1007/s40890-019-0075-7

The Impact of Structural Reforms and Regulations on the Demand Side in the Railway

Mizutani, F.

*Industry Review of Network Economics*, 18 (1) , pp. 1~33, 2020. DOI: 10.1515/rne-2019-0006

規制改革がわが国大手私鉄の経営戦略に与えた影響についての一考察

正司健一・Yeon-Jung Song

国民経済雑誌, 221 卷 3 号, PP. 1-15, 2020 年

## 5. 関連活動及び特記事項

(1) 外部資金等(外部資金名(種目), 代表者名, 研究タイトル, 当該年度の受入金額を記載)

○外部資金名: 科学研究費補助金

研究種目: 基盤研究B

代表者名: 正司 健一

研究課題名: 持続可能な交通についての研究: 制度構築, 公民の役割分担を中心に

受入金額: 4,600,000 円 (直接経費分)

(2) 受賞(賞名称, 受賞対象, 受賞者名, 授与機関名, 受賞年・月)

日本海運経済学会 国際交流賞, The Impact of LCC on Non-Aeronautical Revenues in Airport: An Empirical Study of UK Airports, 横見宗樹・P. Wheat・水谷 淳, 2019年10月

兵庫県功労者表彰(学術教育功労), 正司健一, 兵庫県, 2019年5月

交通文化賞, 正司健一, 国土交通大臣, 2020年2月

(3) 研究集会の開催(研究プロジェクトの活動と関連の深いものに限る)

研究集会名: Academic Research Seminar in Sustainable Transport

開催日: 2019年8月9日

場所: 神戸大学大学院経営学研究科中会議室

講演者: Prof. A. Smith (Leeds University, UK)

研究集会名: Applications of the Discrete Choice Models :

開催日: 2019年8月13日

場所: 神戸大学大学院経営学研究科中会議室

講演者: Assoc. Prof. P. Mariel (University of the Basque Country, Spain)

(4) その他, 研究プロジェクトの活動と関連のある特記事項

代表者は、「四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会Ⅱ」(四国旅客鉄道・香川県・徳島県・高知県・愛媛県)の座長を務めている。また特定非営利活動法人「再生塾 - 持続可能なまちと交通をめざして」理事長として, まちづくりや交通の問題の解決に取り組む行政団体, 地域, 学校, 交通事業者, コンサルタント等の担当者等を対象として, 人材育成等を行っている。

様式（年次報告書）

令和 2 年 5 月 7 日

## 2019年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		研究プロジェクトの名称：歴史資料・企業資料のデータベース化、及び画像・テキストデータに基づく歴史・実証・文理融合研究
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		計算社会科学研究センター・シミュレーション部門 上東貴志
当該年度	研究員数	0 人（学術研究員，学振特別研究員（DC1, DC2 は除く），外国人招へい研究員等）
	外部資金獲得実績	科学研究費補助金 23,790 千円，受託研究経費 0 千円，奨学寄附金 0 千円，その他（ 0 千円）
	特許出願件数	1 件，論文発表件数 0 件，著書数 8 件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
上東 貴志	計算社会科学研究センター・シミュレーション部門	研究プロジェクトリーダー
伊藤 宗彦	経済経営研究所・企業競争力研究部門	研究分担者
西谷 公孝	経済経営研究所・企業競争力研究部門	研究分担者
高槻 泰郎	経済経営研究所・グローバル金融研究部門	研究分担者
柴本 昌彦	計算社会科学研究センター・データ分析部門	研究分担者
陳 金輝	計算社会科学研究センター・データベース部門	研究参画者
石堂 詩乃	経済経営研究所・研究支援推進員	研究参画者
野邑 理栄子	附属図書館・文書資料室	研究参画者
小代 薫	計算社会科学研究センター・データベース部門	研究参画者

### 3. 研究成果の概要等について

2019年度は大学文書史料室に保管されている神戸高等商業学校初代校長水島鍬也先生が発行した卒業生の推薦書等の控え約 2,300 点を翻刻し、現代語に訳した。同推薦書は、明治 44 (1911) 年から大正 7 (1918) 年まで、水島校長が神戸高等商業学校で「学理」を学んだ卒業生が「実際」の社会へと第一歩を踏み出す際に、企業・学校等へ宛てたものである。その成果として、以下の書籍を刊行した。

『水島鍬也校長 卒合成推薦書全集』（全 6 巻）

また、関連イベントとして、出光佐三記念六甲台講堂において以下のシンポジウムを開催し、多数の参加者を集めた。

神戸高商のグローバル人材育成とキャリア支援  
～水島鍬也校長の推薦書（1911-1918 年）から読み解く～

2019 年 9 月 6 日（金）

詳細：[https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2019\\_09\\_20\\_02.html](https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2019_09_20_02.html)

さらに、以下の特許出願を行った。

"学術論文の査読者検索装置、査読者検索方法、及び査読者検索プログラム"

特願 2020-014904

幸若完壮、上東貴志

#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

##### [著書]

『水島鏡也校長 卒合成推薦書全集』（全 6 巻）

2019 年 10 月

神戸大学経済経営研究所



著書：『鐘紡資料叢書 株主総会編第 3 巻』（研究叢書 80 号）

編者名：伊藤宗彦・國本光正・加島美和

ページ：374 頁

発行所、発行年：神戸大学経済経営研究所 2020 年 3 月

著書：『鐘紡資料叢書 株主総会編第 4 巻』（研究叢書 81 号）

編者名：伊藤宗彦・國本光正・加島美和

ページ：288 頁

発行所、発行年：神戸大学経済経営研究所 2019 年 3 月

##### [特許]

本学整理番号：K P 1 9 - 0 5 3

発明の名称：学术论文の査読者検索装置、査読者検索方法、及び査読者検索プログラム

発明者：幸若 完壮／上東 貴志

請求項数：1 2

出願番号：特願 2 0 2 0 - 1 4 9 0 4

出願日：令和 2 年 1 月 3 1 日

審査請求期限：令和 5 年 1 月 3 1 日

出願人：国立大学法人神戸大学



## 5. 関連活動及び特記事項

(注) 複数の研究プロジェクトに所属されている先生で、研究成果の切り分けが難しく、複数のプロジェクトから成果として報告する場合は、その成果のあとに「※」印を付して下さい。

(1) 外部資金等(外部資金名(種目), 代表者名, 研究タイトル, 当該年度の受入金額を記載)

○外部資金名：科学研究費補助金 ※

研究種目：基盤研究 (A)

代表者名：伊藤 宗彦

研究課題名：日本型経営システムの形成と発展プロセスの研究

受入金額：8,450,000 円

○外部資金名：科学研究費補助金 ※

研究種目：国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))

代表者名：高槻 泰郎

研究課題名：前近代経済における公共投資の実施形態に関する清朝中国と徳川日本の比較研究

受入金額：15,340,000 円

(2) 研究集会の開催 (研究プロジェクトの活動と関連の深いものに限る)

研究集会名：経済経営研究所創立 100 周年記念連続シンポジウム『神戸高商のグローバル人材育成とキャリア支援～水島鍬也校長の推薦書(1911-1918 年)から読み解く』

主催団体：神戸大学 経済経営研究所

開催日：2019 年 9 月 6 日

場所：神戸大学出光佐三記念六甲台講堂

様式（年次報告書）

令和 2年 5月 7日

## 2019年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		現代中国研究拠点	
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		経済学研究科 教授 梶谷懐	
当該年度	研究員数	7人（学術研究員，学振特別研究員（DC1, DC2は除く），外国人招へい研究員等）	
	外部資金獲得実績	科学研究費補助金 0千円，受託研究経費 0千円， 奨学寄附金 0千円，その他（ 千円）	
	特許出願件数	0件，	論文発表件数 件， 著書数 件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
梶谷懐	経済学研究科	中国経済研究、全体統括
緒形康	人文学研究科	中国の歴史、思想の研究
陳光輝	国際協力研究科	中国経済の実証的研究
谷川真一	国際文化学研究科	中国政治の実証的研究
王 柯	国際文化学研究科	中国政治史の実証的研究
藤井 大輔	大阪経済大学経済学部講師	中国経済研究、研究参画者
三竝康平	帝京大学経済学部講師	中国経済研究、研究参画者

### 3. 研究成果の概要等について

2019年9月19日に、中国経済の現状に関する研究会を神戸にて開催した。研究会では、藤井大輔氏による報告「中国の東南アジアへのFDIは効率的なのか？」ならびに宝剣久俊氏による報告「中国農村の就業構造変化による農業労働の女性化：家計調査に基づく実証分析」が行われた。

藤井大輔氏の報告では、海外直接投資のグラビティモデルをベースにした **Stochastic Frontier Analysis** の手法を用いて、中国の東南アジア諸国に対する海外直接投資の効率性の測定及びその要因の分析が行われた。分析の結果、先行研究とは異なり、一人当たりGDPが小さく、政治的安定性が低い国ほど効率性が高いことが示された。具体的にはインドネシア及びフィリピンの効率性が低い一方、CLMV諸国は1に近い値を取っていることが示された。

また宝剣久俊氏の報告では、中国社会科学院などが実施・公表している家計調査CHIPのデータを用いて、農村における非農業就労の拡大が「農業労働の女性化」をもたらしているという仮説が検証された。女性の農業就労時間を被説明変数にとった分析の結果、世帯主(男性)の非農業就労を説明変数とした場合有意な結果は得られないが、子女の非農業就労は正で有意な影響を与えることから、農業の女性化は夫婦間ではなく、親子世代の間において観測されるという結論が得られた。

2019年9月28日には、中国の経済文化に関する研究の第一人者、Erfurt UniversityのMax Weber Centre for Advanced Cultural and Social Studies, Carsten Herrmann-Pillath氏をお迎えして "Entrepreneurs and ritual in China's economic culture" という論題での講演会を実施した。Carsten Herrmann-Pillath氏の講演は、儒教を背景とした「礼」による規範によって、中国の民営企業がどのような影響を受けているのかを、広東省深圳市における農村企業に対する豊富なフィールドワークを基に様々な角度から考察したものである。Herrmann-Pillath氏は、中国の血縁をベースとした人的なネットワーク(宗族)により、中国の企業の凝集性や、規範性が生じていることを強調した。これに対し、討論者の中兼和津次氏は、日本においても渋沢栄一に代表されるように儒教的な規範によって資本主義の発展を支えた起業家が存在することを指摘し、儒教が企業家精神に与える影響は中国と日本とで若干異なるのではないかという問題提起を行った。

2020年12月17日には、香港の民主化運動についてかねてより積極的に発言を行って来た知識人であるチャイナ・レイバーネットの區龍宇氏および香港の大学院生でアクティビストの陳怡を神戸にお招きして、香港の問題に関心を持つ市民との交流の機会を設けた。交流会では、區氏と陳氏から民主化を求めてデモを行う市民とそれを制圧しようとする香港政府との対立と、深まり行く社会的分断の状況についての最新の状況報告が行われ、参加者との間で活発な意見交換が行われた。

2020年2月3日には、北京国能環科環保科技有限公司の佐野史明氏をお招きして、「北京の最新のスタートアップ事情」と題した後援会を開催した。

佐野氏の報告では、ハイテク産業が集積しているにもかかわらず、深センなどに比べて日本での認知度が低い北京におけるイノベーション・スタートアップ事情について、最新の現状報告に加えて独自の視点による分析が行われた。イノベーションの状況について、VCを通じた資金調達・エコシステムの形成、代表的な企業の紹介、日系ベンチャーキャピタルの取り組みという観点から紹介・分析を行った。

三竝康平氏のコメント並びにその後の質疑応答では、主に

- ①なぜ日本では北京のイノベーションがフォーカスされないのか
- ②日本企業と北京のイノベーションエコシステムとのコラボの可能性
- ③コラボのために何が必要か

という三つの論点から意見が出され、北京のイノベーション状況に関する活発な議論が行われた。

#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

[論文]

論文名：「他者の発見と「中華民族論」の誕生」、

著者名：王 柯

掲載誌，巻，ページ：日本中国友好協会『研究中国』、第8号（通巻128号）、14-24頁、2019年3月。

論文名：「周縁を脱出する作意——中国南方ムスリムの『宗族化』と『官』の語り」

著者名：王 柯

掲載誌，巻，ページ：神戸大学国際文化学研究科『国際文化学研究』52号、35-64頁、2019年7月。

論文名：「恐怖からの脱出——ウイグル人亡命者の選択」

著者名：王 柯

掲載誌，巻，ページ：神戸大学国際文化学研究科『国際文化学研究』53号、37-54頁、2019年12月。

論文名：「李秀成の供述書はいかに作成されたか」

著者名：緒形康

掲載誌，巻，ページ：『文学部紀要』（神戸大学文学部）第47号、PP. 1-67, 2020年3月。

論文名：「五権憲法と心性儒学」

著者名：緒形康、『孫文研究』

掲載誌，巻，ページ：第65号、PP. 43-49, 2019年12月

論文名：「中国の『監視社会化』と市民社会の役割」

著者名：梶谷懐

掲載誌，巻，ページ：『社会思想史学会年報』第43号、9-30頁、2019年9月。

論文名：「中国経済のマクロ動向—積極的な財政政策と地方政府の制御は両立するか—」

著者名：梶谷懐

掲載誌，巻，ページ：『東亜』第630号、30-39頁、2019年12月。

論文名：「陰謀論としての継続革命論、そして文化大革命」

著者名：谷川真一

掲載誌，巻，ページ：石川禎浩編『毛沢東に関する人文科学的研究』京都大学人文科学研究所，PP. 275-302, 2020年。

論文名：「『二重の不確実性』を越えて：米中貿易摩擦で揺れ動く中国のイノベーション—大規模企業データベースを用いた定量的検討」

著者名： 三竝康平

掲載誌，巻，ページ：郭四志編『米中摩擦化の中国経済と日中連携—産業高度化及び日中産業・ビジネス連携の新動向』同友館、第5章

[著書]

著書：《亦師亦友亦敵—民族主義與近代中日關係》（師であれ友であれ敵でもある：民族主義と近代日中関係）（単著）

著者名：王 柯

□□□□□□ 633 頁

発行所，発行年：香港中文大學出版社，2019 年 12 月。

著書：『從“天下” 国家到民族国家：歴史中国的認知与实践』（「天下」国家から 民族国家へ：歴史的中国的自己認識と実践）（単著）

（台湾政治大学出版社 2014 年 6 月出版『中国、從天下到民族国家』の□体字版）

著者名：王 柯

巻，ページ：352 頁

発行所，発行年：上海人民出版社、2020 年 3 月、

著書：『幸福な監視国家・中国』（共著）

著者名： 梶谷懐・高口康太

巻，ページ：254 頁

発行所，発行年：NHK 出版新書、2019 年 8 月。

著書：『新・図説 中国近現代史〔改訂版〕：日中新時代の見取図』

著者名： 田中仁・菊池一隆・加藤弘之・日野みどり・岡本隆司・梶谷懐

巻，ページ：298 頁

発行所，発行年：法律文化社、2020 年 2 月。

## 5. 関連活動及び特記事項

特になし

様式（年次報告書）

令和2年5月7日

## 2019年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称	メタ科学技術研究プロジェクト:方法・倫理・政策の総合		
研究代表者 部局・専攻・氏名	人文学研究科・文化構造専攻・松田毅		
外部資金 獲得実績	科学研究費補助金 19,240 千円, 奨学寄附金	受託研究経費 2,314 千円 千円,	共同研究経費 千円
論文発表件数	22 件,	著書数	8 件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
伊藤 真之	人間発達環境学研究科	科学技術の政治経済学
塚原 東吾	国際文化学研究科	科学技術の政治経済学
高橋 裕	法学研究科	科学技術の政治経済学
原口 剛	人文学研究科	科学技術倫理
柳川 隆	経済学研究科	科学技術の政治経済学
市澤 哲	人文学研究科	科学方法論
角松 生史	法学研究科	科学技術の政治経済学
茶谷 直人	人文学研究科	科学技術倫理
中 真生	人文学研究科	科学技術倫理
石川雅紀	経済学研究科（名誉教授）	科学技術の政治経済学
大塚 淳	京都大学・文学研究科	科学方法論

### 3. 研究成果の概要等について

#### ・日本学術振興会領域開拓プログラムの推進

神戸大学の本プロジェクトのメンバーを軸に、学内の自然科学系教員や学外の人文社会・自然科学系の研究者などを交えて組織した日本学術振興会：課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（領域開拓プログラム（研究テーマ公募型））「責任ある研究とイノベーション」の概念と「社会にとっての科学」の理論的実践的深化「生命・環境技術の社会実装に関する先端融合研究—21世紀型参加のビジョンと試行—」（平成29年10月～令和2年9月、以下「領域開拓プログラム」）を引き続き推進した。本年度も「メタ科学技術研究ワークショップ」（以下WMST）を中心に、国際シンポジウムも含め10回の共同討議の場をもった（3月3日の国際ワークショップは新型コロナウイルス肺炎の影響で開催取りやめとなった）。共同研究は基本的に共同討議のかたちをとっている。また、プロジェクト開始以来の成果が2020年度前半に、英文の論文集 *Risk and the Regulation of New Technology*, Kobe University Social Science Research Series (Springer、以下RRNTと略)として刊行されるので、これに掲載予定のものも本年度の成果として一部触れたい。本年度のWMSTのテーマと提題者詳細と構成員個々の実績の全体は、下記の論文・著書リストおよび「(4)研究集会の開催の項目」を参照されたい。

#### ・領域開拓プログラム：「生命・環境技術の社会実装に関する先端融合研究」の実施：生命と環境に焦点を当てたワークショップを通じての共同討議

以下では課題ごとに研究成果の詳細を上記の論文集RRNTと共同討議を軸に報告する。

#### ① 科学哲学の観点からのイノベーションとリスクヘッジの方法論構築

自然科学と人文社会科学の「価値負荷性」と介入の問題について、松田が原因と責任に関する「多元主義」・「程度論」（RRNT. The Gradation of the Causation and the Responsibility focusing on “Omission”）の研究を、大塚が統計学のモデル選択の価値的要因に関する科学哲学・実践的研究（RRNT. Ockham’s Proportionality: A Model Selection Criterion for Levels of Explanation）を行ったほか、WMST第38回の標葉隆馬・成城大学准教授「萌芽的科学技術を巡る責任ある研究・イノベーションの実現に向けたアーキテクチャの構築試行」、河村賢・成城大学研究員「先端科学のデュアルユース言説に見る境界設定作業」からは、分子ロボット技術の問題に即して、研究者や企業人、法律家も含む、参加型のRRI、RTTA（テクノロジーアセスメント）、ELSI（Ethical, Legal, Social Implication）研究例が示され、「アクションリサーチ」としての研究の展開への示唆が与えられた。

#### ② 「設計・計画」概念の更新

「イノベーション」が含む介入の契機、価値負荷的構造を重視し、リスクヘッジを意識した研究・技術の設計概念と方法論の枠組みを、参加型手法も含め検討した。WMST第36回の山崎寿一・工学研究科教授「設計科学と計画学—建築・設計・計画」では、「規範科学」としての建築学、特に集落研究から、自然、コミュニティ、文化を貫く論理と価値



の探究、持続可能性を重視した設計方法論の輪郭が浮き彫りになった。また、WMST 第40回の青井貴之・医学研究科教授（iPS細胞応用医学分野・科学技術イノベーション研究科先端医療学分野）「再生医療の研究・開発に関する諸問題」では、iPS細胞のような先端医療推進の規範的制約に関して、社会的・政治的な決定過程の参加の問題が焦点化されると同時に、医学研究と医療技術全体の文脈で、ノートパソコンで使える「ゲノムシーケンス」を例に、価値ある技術の開発の要件を考察する手がかりが与えられた。

さらに、WMST 第39回の正村俊之・大妻女子大学教授「科学技術の時代における民主的な意思決定——リスク・無知・合意」からは、「監査社会」とも呼べる現代社会では、技術の社会実装のリスクに関する事前の社会的コミュニケーションの有り方が問題であること、特に、意思決定の際に参照される「ミニパブリック」を例に、「不合意の余地を開く合意のメカニズム」の形成が課題であることが示された、そしてWMST 第42回の水野祐・弁護士（シティライツ法律事務所）「創造性・イノベーションを加速するための法のデザイン」では、様々な例を通して立法、法改正、行政との対話を含む、法解釈、共同規制、契約、知的財産などに関して、市民や企業がルール形成に関与する「ボトムアップ型」の「リーガルデザイン」の構想が示され、生産物に関する社会的認識の向上を促す方法の開発への足掛かりが与えられた。

### ③「インフォームド・コンセント」モデルの限界確定

②にも共通するが、「リスクコミュニケーション」が製品・技術使用の危険性の情報提供にとどまることを防ぐ制度を防ぎ、設計段階の専門家や利害関係者の「事前評価」、可謬性も考慮し、長期的に「保険」の機能を果たす責任制度の構想を含む研究に入った。WMST 第35回の田坂さつき・日本学会会議「いのちと心を考える」分科会委員長の「ゲノム編集をめぐる倫理規範の構築を目指して—科学技術イノベーションと人間の尊厳」では、ヒト胚をめぐる我が国での検討の蓄積を踏まえながら、「臨床哲学」的方法論から、難病・障がい者の立場も考慮し、メディア、学会、サイエンスコミュニケーションも含め、多様な対話の場の設定と実践の重要性の認識が得られた。関連して、生命・医療の先端技術および「インフォームド・コンセント」に関わる倫理・法的・ジェンダー論的研究として、茶谷（RRNT. Aristotle and Bioethics）、板持（RRNT. Posthumously Conceived Children and Succession from Perspective of Law）、中（RRNT. Reinterpreting Motherhood: Separating Being a “Mother” from Giving Birth）の研究成果も出ている。さらなる課題として「公正」の観点から技術の実装に関わる使用者の能力格差による不平等をどう防ぐかを検討する必要がある。

本年度は、2016年秋に開始し、4年が経過する、人文社会系の先端融合研究を進める方法や課題についての反省的検討も行った。WMST 第37回の柳川隆・経済学研究科教授、高橋裕・法学研究科教授「人文社会科学の融合研究を考える」、WMST 第41回の丸山徳次・龍谷大学名誉教授、「問題共同体としての里山学—龍谷大学〈里山学研究センター〉の16年」WMST 第43回の伊藤邦武・龍谷大学文学部教授（京都大学名誉教授）「科学技術に関する先端融合研究を考える：人文社会科学の観点を中心に」である。それぞれ、人文社会系の融合研究での研究と教育の連携の有効性、問題発見と共有のメカニズムの構築、国際的視野も含めた多様な展開可能性についての知見が得られた。

なお、論文集 *Risks and Regulation of New Technologies* に含まれる諸成果については、次年度に報告したい。原稿は出そろい契約完了した。論文集は以下の4部からなる。

○Part 1. Socio-humane Sciences of New Technology

1. Wolff (オクスフォード大学) : Risk and the Regulation of New Technology
2. Matsuda (神戸大学) : The Gradation of the Causation and the Responsibility focusing on “Omission”
3. Otsuka (京都大学) : Ockham’s Proportionality: A Model Selection Criterion for Levels of Explanation

○Part 2. Reproductive Technology and Life

1. Ishi (北海道大学) : Enforcing legislation on reproductive medicine with uncertainty via a broad social consensus
2. Yan&Kang (大連理工大学など) : Gene Editing Baby in China: From the Perspective of Responsible Research and Innovation
3. Itamochi (神戸大学) : Posthumously Conceived Children and Succession from Perspective of Law
4. Chatani (神戸大学) : Aristotle and Bioethics
5. Naka (神戸大学) : Reinterpreting Motherhood: Separating Being a “Mother” from Giving Birth

○Part 3. Environmental Technology

1. Ott (キール大学) : Domains of Climate Ethics
2. Yanagawa (神戸大学) : Electricity Market Reform in Japan: Fair Competition and Renewable Energy
3. Takeuchi&Miyamaoto (神戸大学など) : Renewable energy development in Japan
4. Hoshi (神戸大学) : Adverse effects of pesticides on regional biodiversity and their mechanisms
5. Fujiki (神戸市立看護大学) : Reconsidering Precautionary Attitudes and Sin of Omission for Emerging Technologies: Geoengineering and Gene Drive

○Part 4. Science and Society

1. Kawamura, Yoshinaga, Kawamoto, Tanaka, Shineha (大阪大学など) et al : Exploring the contexts of ELSI and RRI in Japan: Case studies in dual-use, regenerative medicine, and nanotechnology
2. Tsukahara (神戸大学) : Global climate change and uncertainty: An examination from the history of science

#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

[論文](人文社会科学系の論文として評価に値するものを挙げている。)

1. 松田毅、“Substantial Form and Atomism From Leibniz’s remarks about Cordemoy” *Review Roumania Philosophie*. 66. Bucharest. 2019. 177-188.
2. 松田毅、「ライブニッツの時間論——「現実的時間の関係主義」『神戸大学文学部紀要』47号 2020.1-41.
3. Togo Tsukahara, "Legacies and Networking: Japanese STS in Transformation" in *East Asian Science, Technology and Society* 13(1) 1 - 7. 2019年4月
4. 塚原東吾、「東アジアと欧州のSTS」『科学技術社会論とは何か』藤垣裕子責任編集、161-193. 2020年4月
5. 塚原東吾「過去の災害をどう探るか?: 古気候記録の収集・分析と市民科学の試み」『立命館生存学研究』3, 特集 マイノリティ・アーカイブズの構築・研究・発信、17-31 2019-10
6. 塚原東吾、「オリンピックとカジノ万博は現代のバベルの塔か?: 科学技術とプロテスタンティズムの倫理」『福音と世界』(特集 現代のバベルの塔 : 反オリンピック・反万博) 74(8), 30-35. 2019-08
7. KANO Kei, KUDO Mitsuru, YOSHIZAWA Go, MIZUMACHI Eri, SUGA Makiko, AKYA Naonori, EBINA Kuniyoshi, GOTO Takayuki, ITOH Masayuki, JOH Ayami, MAENAMI Haruhiko, MINAMOTO Toshifumi, MORI Mikihiro, MORIMURA Yoshitaka, MOTOKI Tamaki, NAKAYAMA Akie, TAKANASHI Katsuya, How science, technology and innovation can be placed in broader visions? -Public opinions from inclusive public engagement activities-, *Journal of Science Communication*, 18 (3), DOI: 10.22323/2.18030202. 2019.6.14, A02[1-19]
8. 柳川隆、「国際性・総合性・実践性を備えた経済政策研究に向けて」『経済政策ジャーナル』第16巻第1号, 1-10, 2019年9月30日
9. Takashi Yanagawa, “JAPAN ECONOMIC POLICY ASSOCIATION: Toward Economic Policy Research with Internationality, Comprehensiveness, and Practicality” *Information Bulletin of the Union of National Economic Association in Japan, The Union of National in Japan Economic Association in Japan*” No. 39, 38-46, 2019.
10. 柳川隆、「産業組織論からみた中小企業政策（3）：中小企業政策」『中小企業と組合』893, 2019年7月, 16-19
11. 柳川隆、「産業組織論からみた中小企業政策（2）：競争政策」『中小企業と組合』892, 2019年6月, 12-15
12. 柳川隆、「産業組織論からみた中小企業政策（1）：産業政策」『中小企業と組合』891, 2019年5月, 12-15
13. 中真生、「母であること」(motherhood)を再考する一産むことからの分離と「母」の拡大、岩波書店『思想』1141号 2019年5月、140-159.
14. 高橋裕「法社会学は司法制度改革にどのように接近してきたか」*法社会学* 86号 (2020年3月)、44-60.
15. 角松生史、「都市再生法上の協定と「公共」への参加」、*法律時報*、91巻11号、

2019.10、25-31.

16. 角松生史、「日本土地収用法における「私益収用」と「生活補償」」、神戸法學雑誌、69巻2号、2019.9、196-242.

17. 角松生史、「カジノを含むIR事業の「公益性」」、法学セミナー、782号、2020.2、22-29.

18. 角松生史、「第1部「参加原則の概観と環境法」へのコメント」、環境法政策学会誌、第22号、2019.8、86-95.

19. 原口剛、「ジェントリフィケーションの暴力を直視せよ」『建築雑誌』2019年10月号、17

20. Okasha, S., Otsuka, J. (2020). The Price equation and the causal analysis of evolutionary change, *Philosophical Transactions of the Royal Society B* 375: 20190365. DOI: <https://doi.org/10.1098/rstb.2019.0365>

21. Otsuka, J. (2019). Species as Models, *Philosophy of Science*, 86(5): 1075-1086 <https://doi.org/10.1086/705519>

22. 市沢哲、インタビュー「歴史研究の隣人たち」第1回家じまいアドバイザー企画、巻頭言、総括、神戸大学地域連携センター『Link』11号、2019年12月、神戸大学学術成果リポジトリ [http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta\\_pub/G0000003kernel\\_81011928](http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003kernel_81011928)

#### [著書]

1. 松田毅『マンガ／漫画／MANGA—文学の視点から』（共著）前川修・奥村弘編、神戸大学出版会 2020年、担当「少しだけ哲学的に」280-283 およびアスンタ・プラート「環境問題と社会問題について若者の意識を高めるためのマンガと新しい方法」284-294.（丸山栄治と共訳）

2. 塚原東吾 [ほか] 編著『歴史の中の気候 気候の中の歴史：国際シンポジウム資料集』神戸STS研究会 2019.2 神戸STS叢書シリーズ 15（全115頁）

3. 塚原東吾 [ほか] 編著『アジアの気候再現：航海日誌・モンスーン・台風をめぐる人文学と気象学のトランスサイエンス：連続国際ワークショップ資料集』神戸STS研究会 2019.12 神戸STS叢書シリーズ16（全144頁）

4. アーロン・S.モア著、塚原東吾監訳『大東亜を建設する：帝国日本の技術とイデオロギー』全367頁 人文書院、2019.12、解説は塚原と藤原辰史との共著

5. 茶谷直人、『アリストテレスと目的論—自然・魂・幸福』（単著）、晃洋書房、2019年9月、全204+iv頁（索引）

6. 中真生、『因果・動物・所有一ノ瀬哲学をめぐる対話』（共著）宮園健吾・大谷弘・乗立雄輝編、武蔵野大学出版会、2020年、「死の所有」と生のリアリティ、159-192.

7. Otsuka, J. (2019). Ontology, Causality, and Methodology of Evolutionary Research Programs, in *Evolutionary Causation: Biological and Philosophical Reflections*, Uller, T. and Laland, K eds, The MIT Press, 247-264. 査読有

8. Otsuka, J. (2019). *The Role of Mathematics in Evolutionary Theory*, Cambridge University Press. 総頁 75page. 査読有

## 5. 関連活動及び特記事項

○科学研究費補助金 研究種目：基盤研究(C)

代表者名：松田毅

研究課題名：ライブニッツ存在論の研究：生物、時間、経済を焦点に

受入金額：1,040,000 円

○受託研究

代表者名：松田毅

研究題名：独立行政法人日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業領域開拓プログラム」に本プロジェクトの「生命・環境技術の社会実装に関する先端融合研究—21世紀型参加のビジョンと試行—」

受入金額：2,314,000 円

○科学研究費補助金 (伊藤真之分)

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

代表者名：伊藤真之

研究課題名：バーチャルリアリティ技術を利用した宇宙教育プログラムの開発と展開

受入金額：1,170,000 円

○科学研究費補助金 (塚原東吾分)

研究種目：基盤研究(C)

代表者名：塚原東吾

研究課題名：トランスサイエンスからポストノーマルサイエンスへ

受入金額：500,000 円

研究種目：基盤研究(B)

代表者名：太田 淳

研究課題名：植民地期東南アジアにおける気候変動と社会変容—人文歴史気象学の創成

受入金額：400,000 円

研究種目：挑戦的研究(開拓)

代表者名：久保田 尚之

研究課題名：江戸時代の外国船の航海日誌に記載された気象データから復元する日本近海の台風活動

受入金額：400,000 円

研究種目：基盤研究(A)

代表者名：松本 淳

研究課題名：航海日誌に記録された気象観測資料による南シナ海モンスーンの長期変動史

受入金額：2,900,000 円

研究種目：基盤研究(B)

代表者名：慎 蒼健

研究課題名：戦後日本の海外技術援助・協力に関する科学技術史研究

受入金額：550,000 円

○科学研究費補助金（茶谷直人分）

研究種目：基盤（C）

代表者名：茶谷直人

研究課題名：プネウマからガイストへ—古代ギリシアからゲーテにいたる人間三元論の系譜

受入金額：660,000 円

研究種目：基盤（B）

代表者名：近藤智彦

研究課題名：アリストテレス倫理学の再定位を通じた新たな自然主義的倫理学の構想

受入金額：100,000 円

○科学研究費補助金（角松生史分）

研究種目：基盤研究（B）

代表者名：角松生史

研究課題名：空間と法の相互規定性から見た公法学の再構築—学際的アプローチ

受入金額 2,300,000 円

研究種目：国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))

代表者名：角松生史

研究課題名：人口減少時代における東アジア4法域（日韓台中）の土地収用制度の比較研究

受入金額：3,400,000 円

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

代表者名：角松生史

研究課題名：法学分野における議論教育の手法としてのアカデミック・ディベートの活用に関する研究

受入金額：790,000 円

研究種目：基盤研究（B）

代表者名：内海麻利

研究課題名：空間制度の管轄と制御に関する研究：縮減社会と諸外国の実態に着目して

受入金額：300,000 円

○科学研究費補助金（中真生分）

研究種目：基盤研究（C）

代表者名：中 真生

研究課題名：「生殖」から見る倫理学 — ジェンダー・身体・他者を軸に

受入金額：1,040,000 円

○科学研究費補助金

研究種目：国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))

代表者名：浜渦辰二

研究課題名：子育ての現象学：フィンランド・ネウボラをフィールドに

受入金額：430,000 円

○科学研究費補助金（原口剛分）

研究種目：若手研究(B)

代表者名：原口 剛

研究課題名：都市下層労働者のモビリティと対抗運動の動態：場所概念の新たな可能性

受入金額：1,040,000 円

研究種目：基盤研究(B)

代表者名：福田 珠己

研究課題名：場所・物質・人の関係性に注目した知の形成に関する地理学史研究

受入金額：100,000 円

研究種目：基盤研究(C)

代表者名：櫻田 和也

研究課題名：釜ヶ崎史料を基点とした地域情報アーカイブの実践的研究

受入金額：300,000 円

○科学研究費補助金

研究種目：基盤研究(C)(一般)

代表者名：大塚淳

研究課題名：次世代進化論に向けた構造存在論の数理的發展

受入金額：1,820,000 円

※研究集会開催（研究プロジェクトの活動と関連の深いものに限る）

①第 35 回メタ科学技術ワークショップ（WMST と略）4 月 26 日、田坂さつき・立正大学文学部教授（日本学術会議 24 期哲学委員会「いのちと心を考える」分科会委員長）「ゲノム編集をめぐる倫理規範の構築を目指して—科学技術イノベーションと人間の尊厳」

②第 36 回 WMST、5 月 24 日、山崎寿一・神戸大学大学院工学研究科教授、「設計科学と計画学—建築・設計・計画—」

③第 37 回 WMST、6 月 28 日、柳川隆・神戸大学大学院経済学研究科教授、高橋裕・神戸大学大学院法学研究科教授、「人文社会科学の融合研究を考える」

④第 38 回 WMST、7 月 25 日、標葉隆馬・成城大学文芸学部マスコミュニケーション学科准教授、「萌芽的科学技術を巡る責任ある研究・イノベーションの実現に向けたアーキテクチャの構築試行」、河村賢・成城大学博士研究員「先端科学のデュアルユース言説に見る境界設定作業」

⑤第 39 回 WMST、8 月 1 日、正村俊之・大妻女子大学教授（東北大学名誉教授）、「科学技術の時代における民主的な意思決定——リスク・無知・合意」

⑥第 40 回 WMST、9 月 24 日、青井貴之・神戸大学大学院医学研究科教授（iPS 細胞応用医学分野・科学技術イノベーション研究科先端医療学分野）、「再生医療の研究・開発に関する諸問題」

⑦第 41 回 WMST、12 月 5 日、丸山徳次・龍谷大学名誉教授（龍谷大学里山学研究センター・フェロー）、「問題共同体としての里山学—龍谷大学〈里山学研究センター〉の 16 年」

⑧第 42 回 WMST、12 月 20 日、水野祐・弁護士（シティライツ法律事務所）、「創造性・イノベーションを加速するための法のデザイン」

⑨第 43 回 WMST、2020 年 1 月 16 日、伊藤邦武・龍谷大学文学部教授（京都大学名誉教授）「科学技術に関する先端融合研究を考える：人文社会科学の観点を中心に」

⑩第 3 回先端科学技術の公共性を討議する国際ワークショップ（第 44 回 WMST）3 月 2 日 Focusing on Intellectual Property（法学研究科で開催）

基調講演：Merges Robert P. Professor, University of California at Berkeley: “Justifying Intellectual Property”

Tamura Yoshiyuki, Professor, The University of Tokyo: “A Theory of Intellectual Property”

Yamane Takakuni, Professor, Doshisha University: “Conflict between Rights-based Theory and Utilitarian Theory in the field of IP”

(なお 3 月 3 日に Focusing on Science and Value として基調講演：Heather E. Douglas, Associate Professor, Michigan State University: “Science and Values: The Challenges of Authority and Accountability”

Otsuka Jun, Associate Professor, Kyoto University: “What is a good model? Pragmatic aspects of machine learning”

Kanzaki Nobutsugu, Professor, Nanzan University: “At the nexus of society and technology: transdisciplinary research and social acceptability”を予定していたが、新型コロナウイルス肺炎流行から講演者が来日中止となり、開催を見合わせた。)





様式（年次報告書）

令和2年5月12日

## 2019年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		人文情報の文理融合研究と地域学創出
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		奥村弘・人文学研究科・社会動態・奥村弘
当該年度	研究員数	13人（学術研究員，学振特別研究員（DC1, DC2は除く），外国人招へい研究員等）
	外部資金獲得実績	科学研究費補助金 99457千円，受託研究経費 658千円，奨学寄附金 404千円，その他（20200千円）
	特許出願件数	件，論文発表件数 3件，著書数 7件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
奥村 弘	人文学研究科・社会動態専攻・教授	総括責任者
市澤 哲	人文学研究科・社会動態専攻・教授	地域社会と歴史学についての研究
黒田 龍二	工学研究科・建築学専攻・教授	地域社会と建築史についての研究
北後 明彦	都市安全研究センター・教授	地域社会と安全安心に関わる文理融合研究
槻橋 修	工学研究科・建築学専攻・准教授	地域社会と記憶に関わる研究
古市 晃	人文学研究科・社会動態専攻・教授	地域学創出に関わる歴史研究
増記 隆介	人文学研究科・社会動態専攻・准教授	地域学創出に関わる美術史研究
松下 正和	地域連携推進室・特命准教授	地域学創出のための実践的研究
久留島 浩	国立歴史民俗博物館・館長	地域歴史文化についての実践的研究
後藤 真	国立歴史民俗博物館・准教授	人文情報学による実践的な地域文化創出の研究
日高 真吾	国立民族学博物館・准教授	文化財保存科学と関連する文理融合研究

佐藤 大介	東北大学災害科学国際研究所・准教授	歴史資料保存活用を通じた地域学の創出研究
-------	-------------------	----------------------

### 3. 研究成果の概要等について

① 本プロジェクトは、2018年1月に、本学・東北大学・人間文化研究機構（基盤機関：国立歴史民俗博物館）の三者で、「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」（略称：歴史資料保全 NW 事業）についての連携協定を基礎にしている。この事業は、歴史文化資料保全およびそのための全国的な相互支援体制の構築等を主な目的としており、本学では、人文学研究科が事業の主導機関であり、本プロジェクトはそこでの基礎研究をすすめている。また、本プロジェクトの研究成果を地域社会での具体的に実践する歴史資料ネットワークの代表として奥村弘は、歴史資料ネットワークの代表として実践的研究を展開し、東日本大震災で被災した史料のクリーニングや撮影を行った貢献が評価され、文化遺産の継承に多大な貢献をした個人・団体を顕彰する「第13回読売あをによし賞」（読売新聞社主催）の特別賞を2019年5月に受賞した。

また本プロジェクトは、2019年に採択された科学研究費補助金（特別推進研究）「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」の内容を、文理融合的な観点から強化する役割を持ち、採択にも大きな役割を果たした。

② 2019年10月24日、Vrije Universiteit Brussel（ベルギー・ブリュッセル）での神戸大学主催のThe 10th Anniversary Kobe University Brussels European Centre Symposium “Open Science, Evolving Societies: New Horizons For EU-Japan Research”の歴史文化遺産についてのワークショップを担当した。その成果として、ハンガリーエルテ大学、ハンガリー国立歴史博物館、イーストアングリア大学、国立歴史民俗博物館、神戸大学との歴史文化遺産の保全と活用についての相互協力協定の締結についての取り組みが進められ、2020年度に締結されることとなった。

③ 先端融合研究環「未来世紀都市学研究ユニット」と連携して、文理融合型研究展開のため以下の研究を進めた。2019年台風19号では、水損した近代和紙製史料が放置され大量のカビが発生した。湿潤程度にばらつきのある水損資料を一度に殺菌するためガンマ線照射による殺菌についての実践的研究をすすめた。結論としては、事前・事後に採取したカビ試料は10kGy以上のガンマ線照射によって不活化されていることが培養により確認され、所期の目的を達することができた。今後、歴史文化遺産保全の現場での活用について検討を深めていきたい。

#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

当該年度において学術誌などに発表した論文・著書等の著者、発表論文名、掲載誌、巻号、ページ、年の各項目及び特許出願について記載して下さい。(受理証明があるものも記載可)

国際共著論文(海外の大学ないし研究機関に所属する研究者が、共著者に含まれている論文)は、著者名の後に(国際共著)と記載して下さい。

複数の研究プロジェクトに所属されている先生で、研究成果の切り分けが難しく、複数のプロジェクトから成果として報告する場合は、その成果のあとに「※」印を付して下さい。

##### [論文]

論文名：東日本大震災の被災地における記憶の街ワークショップの手法の変遷—模型制作を通じた被災前の地域空間の復元手法に関する研究(その1)(共著)

著者名：磯村和樹、友渕貴之、槻橋修

掲載誌、巻、ページ：, 日本建築学会計画系論文集, 84 巻 764 号, PP. 2139~2149, 2019 年 ※

論文名：歴史系博物館の可能性—国立歴史民俗博物館での経験から—

著者名：久留島浩

掲載誌、巻、ページ：市大日本史, 22 号, PP. 1~24, 2019 年 ※

論文名：第 24 回情報知識学フォーラム予稿 持続可能な地域資料のためのデータ化・オープン化を考える

著者名：後藤真

掲載誌、巻、ページ：情報知識学会誌, 29 巻 4 号, PP. 309~314, 2019 年 ※

##### [著書]

著 書：歴史学研究会編『歴史を未来につなぐ 「3・11 からの歴史学」の射程』(共著)、  
「大規模自然災害時の歴史研究者と大学の役割」

著者名：奥村弘

ページ：70~87

発行所、発行年：東京大学出版会、2019 年 ※

著 書：新修神戸市史 生活文化編(共著)

著者名：奥村弘

総ページ数：1162

発行所、発行年：神戸市、2020 年 ※

著 書：白石太一郎先生傘寿記念論文集編集委員会編『古墳と国家形成期の諸問題』（共著）、「ニホツヒメ・住吉大神伝承と紀伊・播磨」

著者名：古市晃

発行所，発行年：山川出版社、2019年 ※

著 書：古田亮編『教養の日本美術史』（共著）、「平安の日本美術」

著者名：増記隆介

発行所，発行年：ミネルヴァ書房、2019年 ※

著 書：佐藤孝之、三村昌司編『近世・近現代文書の保存・管理の歴史』（共著）、「デジタルアーカイブから見る文書」

著者名：後藤真

ページ：319～326

発行所，発行年：勉誠出版、2019年 ※

著 書：菅豊、北條勝貴編『パブリックヒストリー入門—開かれた歴史学への挑戦』（共著）、「歴史のデータは誰のものか」

著者名：後藤真

発行所，発行年：勉誠出版、2019年 ※

著 書：地域文化を保存する実践者の視点から（共著）

著者名：日高真吾

総ページ数：242

発行所，発行年：Knit-K、2019年 ※

5. 関連活動及び特記事項

(1) 外部資金等(外部資金名(種目), 代表者名, 研究タイトル, 当該年度の受入金額を記載)

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：明石市における地域史料等の調査研究業務委託

受入金額：4,175,926 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：朝来市石川家文書の史料調査研究ならびに山田家文書調査に係る指導助言

受入金額：500,000 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：令和元年度加西市戦争遺跡総合調査委託

受入金額：1,872,660 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：三木家住宅資料調査

受入金額：800,000 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：歴史資料の公開に関する研究

受入金額：1,643,000 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：兵庫県丹波市における地域資源としての歴史文化遺産(古文書等)の調査

受入金額：1,889,800 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：福崎町の地域歴史遺産掘り起こし

受入金額：1,500,000 円

- 外部資金名：産学連携等経費  
代表者名：奥村弘  
研究課題名：小野市小野地区歴史調査及び小野藩家老伊藤家文書を用いた小野市の幕末から明治期の歴史研究  
受入金額：300,000 円
- 外部資金名：産学連携等経費  
代表者名：奥村弘  
研究課題名：兵庫県丹波篠山市における市史編さん事業のための研究と検討  
受入金額：1,715,500 円
- 外部資金名：産学連携等経費  
代表者名：奥村弘  
研究課題名：旧三田藩主九鬼家資料の総合調査  
受入金額：198,000 円
- 外部資金名：産学連携等経費  
代表者名：奥村弘  
研究課題名：三木市史編さん事業  
受入金額：8,200,000 円
- 外部資金名：産学連携等経費  
代表者名：奥村弘  
研究課題名：歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業  
受入金額：12,000,000 円
- 外部資金名：科学研究費補助金  
研究種目：特別推進研究  
代表者名：奥村弘  
研究課題名：地域歴史資料学を基軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成  
受入金額：99457435 円
- 外部資金名：科学研究費補助金  
研究種目：基盤S  
代表者名：奥村弘  
研究課題名：災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて—  
受入金額：551,640 円

(2) 受賞 (賞名称, 受賞対象, 受賞者名, 授与機関名, 受賞年・月) (KUID にあわせる)

第 13 回読売あをによし賞、特別賞、歴史資料ネットワーク (代表: 奥村弘)、読売新聞社、2019 年 6 月

(3) 研究集会の開催 (研究プロジェクトの活動と関連の深いものに限る)

研究集会名: 第 2 回歴史文化資料保全西日本大学協議会

主催団体: 大学共同利用機関法人人間文化研究機構「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」、神戸大学大学院人文学研究科

開催日: 2019 年 8 月 3 日 (土)

場所: センタープラザ西館貸会議室・8 号室 (神戸市中央区三宮町 2 丁目 11 番 1)

研究集会名: 第 6 回全国史料ネット研究交流集会

主催団体: 歴史資料ネットワーク、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」

開催日: 2020 年 2 月 8 日・9 日 (土・日)

場所: 御影公会堂 (神戸市東灘区御影石町 4-4-1)



## 2019年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		移住・多文化・福祉政策に関する国際的研究拠点の形成
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		国際文化学研究科・坂井一成
当該年度	研究員数	4人（学術研究員，学振特別研究員（DC1, DC2 は除く），外国人招へい研究員等）
	外部資金 獲得実績	科学研究費補助金 20,146千円，受託研究経費 20,933千円， 奨学寄附金 千円，その他（ 千円）
	特許出願件数	件， 論文発表件数 6 件， 著書数 4 件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
坂井一成	国際文化学研究科	全体統括、「移民をめぐるガバナンス」分析（政治学分野）及び統括
太田和宏	人間発達環境学研究科	「移民をめぐるガバナンス」分析（アジア地域）
関根由紀	法学研究科	「移民をめぐるガバナンス」分析（法学分野）
青山薫	国際文化学研究科	「国境を越える親密性／公共性」分析統括
岡田浩樹	国際文化学研究科	「多文化主義のローカル化とナショナリズム」分析統括
井上弘貴	国際文化学研究科	「移住者にとっての境界線と人権」分析統括補佐
青島陽子	国際文化学研究科	「移民をめぐるガバナンス」分析統括補佐
樋口大祐	人文学研究科	「移民動態と文化適応」分析（地理学分野）
佐々木祐	人文学研究科	「移民動態と文化適応」分析（社会学分野）
浅野慎一	人間発達環境学研究科	「移民をめぐるガバナンス」分析（社会学分野）

吉井昌彦	経済学研究科	「移民をめぐるガバナンス」分析（経済学分野）
桜井徹	国際文化学研究科	「移住者にとっての境界線と人権」分析統括
藤野一夫	国際文化学研究科	「移民と統合のための文化政策」分析統括
辛島理人	国際文化学研究科	「移民動態と文化適応」分析統括

### 3. 研究成果の概要等について

研究対象の複雑性に鑑みて各研究グループはいずれも学際的な研究体制となっているが、その特質は活かしつつ、既存のディシプリンへの学術的貢献も念頭に研究を進めた。ナポリ・セミナー（9月）と神戸セミナー（2月）を通じて、本研究課題に関わる法学、言語学、文化人類学分野の他ディシプリン（社会学、国際関係論、歴史学等）との連携をさらに進め、2020年度に研究成果を取りまとめる準備を進めた。

#### 1. 移住者にとっての境界線と人権

世界的な移民の増加に伴い、とりわけ自由主義国家は、普遍的人権原理と矛盾しないかたちで、いかに移住者を処遇すべきかという難題に直面している。他方で、今日、アメリカのトランプ政権に典型的なように、主権原理とネーションの自己決定権とに基づく国家の入国管理権の強硬な行使が顕わになっている。R-1は2019年度も、普遍的人格と個別的なナショナル・アイデンティティとに由来する2つの矛盾する倫理的要請をいかにして調停すべきかという根本的課題に取り組んだ。

2019年9月に開催されたイタリア・ナポリでのセミナーでは、イタリア、ドイツ、スウェーデン、アメリカの共同研究者とともに、各々の報告についての討議と相互批判を実施し、研究の進捗状況を直接確認した。

さらに本共同研究のテーマに関する論文集を公刊すべく英国の Routledge 社と出版交渉を行い、査読を経て、2020年3月には、同社から Tetsu Sakurai and Mauro Zamboni eds. *Can Human Rights and Nationalism Coexist?* という書名で論文集を出版する契約が成立する運びとなった。同書は、坂井一成プロジェクトリーダーが共編者を務めるシリーズ *Global Perspectives on Migration and Multiculturalization* の第1巻として刊行される。

#### 2. 移民をめぐるガバナンス

移民のガバナンスをめぐる課題は世界に拡散する動的な性格を有し、一方で地域ごとの歴史や文化に根ざすローカルな特質も無視できないとの認識に立ち、依然として深刻な状態にある地中海の移民難民問題を全体の参照枠とする分析事例としながら、イタリア、フランス、スペイン、台湾、韓国、アメリカ合衆国の研究者との連携を進め、各国での移民の受入をめぐるガバナンスの比較分析を行うとともに、内在する共通性の析出にも取り組んだ。緊急事態の名の下に講じる対策が後手後手に回る点に問題の本質があること、移民難民の発生を常態と捉える政策枠組みへの転換の必要性が生じていることが明らかになった。

#### 3. 国境を越える親密性／公共性

日欧亜各地において結婚移民、介護労働移民、家事労働移民、性労働移民をする当事者が、これらの労働や立場・在留資格を必要に応じて換えて他国に移動し、生活を成り立たせようとする「親密性の労働 (intimate work) の交換可能性」

について、日本、タイ、フランスを中心に観察・聞き取り・および考察した。共同研究の成果を発表するには至らなかったが、中心の3国と3国への送り出し国・地域の共通性および歴史的・文化的・法制度的独自性について分析する方向に研究が進展した。とくにタイについては、主な送り出し国から受け入れ国に変化してきた特徴を捉え、時系列の変化について他国にも共通する現象を析出することが期待される。また、以上から、国家や地域が規定するマクロな構造と、個々人の移住企図・実行と生活や人間関係の変化といったミクロな事象の関連を追及する具体的な手がかりを得た。

#### 4. 多文化主義のローカル化とナショナリズム

少子高齢化による労働力不足による外国人研修生受け入れなどの最近の動きに関し、ベトナム国家大学との共同研究調査プロジェクトを実施した。具体的には日本への研修生も多数輩出しているメコンデルタの農村部 Tra Vinh 省、Dong Tap 省での家族・農村コミュニティへの予備調査を実施、都市や海外への移住労働の社会的基盤についての共同研究に着手した。また日本国内においては、日本語教育研究者と協力し、南米系移住者における「デカセギ」と「継承語」の問題に関する共同研究を行った(科研費基盤 B と連携)した。2019 年度は、São Paulo 大学日系文化研究センターとの共同研究を開始することで合意にいたり、2020 年 2 月に São Paulo 大で行われた日系文化研究 Workshop で Brazil を含む南米の日系研究者に研究ネットワークを広げた。こうした共同研究を通し、移民、移住労働が二国間関係や母社会／移住社会、ホスト社会／ゲスト社会の二者間関係だけでは捉えられず、第三国への広範な移動・移住、往還運動も含み、複雑さをましている様態が明らかになってきた。

#### 5. 移民と統合のための文化政策

ヨーロッパにおける移民・難民と統合のための文化政策およびプロジェクトについて、拠点機関であるヒルデスハイム文化政策研究所、協力機関であるハレ大学との調査を継続するとともに、ウィーンの NGO/EDUCULT と連携してオーストリアにおける共生社会のための文化政策およびアートプロジェクトの実態調査を行った。2015 年の難民危機以降、勢いを増した極右の自由党と、やはり難民に強硬姿勢をとる国民党が 2017 年に連立政権を結成するも崩壊。2020 年 1 月には国民党と緑の党の連立が成立し、オーストリアでもリベラルな環境政策と難民政策および文化政策への期待が生まれている。2020 年 2 月にはハレ大学から協力研究者を招き、移民と難民をめぐる文化政策について討議を進めるとともに、神戸セミナーでは当該のテーマに関して文化心理学の観点から新たな知見が示された。また、本研究課題に関するアジアにおける重点地域として、シンガポールの研究者との共同研究を発展させるべく、継続的なフィールドワークを行なっている。

#### 6. 移民動態と文化適応

2018年度に行った現地での会議開催と、(学内予算による)女性若手研究者の中期派遣を通じて関係を構築したメキシコから二人の人類学者を招き、神戸で国際会議「記憶のマテリアリズム」を開催(2019年11月)し、共催機関であるチアパス自治大学などと移民と記憶・記録を主題とした共同研究を継続した。また、台湾を中心としたそのほかの相手国との共同研究の成果を、学会報告・論文として発信するための協議を進めた。

#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

##### 【論文】

Kazunari Sakai & Gilles Ferragu, (国際共著) “France’s Strategy on Migration Issues in the Mediterranean,” *International Relations and Diplomacy*, February 2020, Vol. 8, No.02, doi: 10.17265/2328-2134/2020.02.001.

Tetsu Sakurai, “The Borders of Law,” in H. Takikawa ed. *Rule of Law and Democracy (Archiv für Rechts- und Sozialphilosophie Beiheft 161)*, Stuttgart: Franz Steiner, pp.41-57. 2020.

Mauro Zamboni, “The Positioning of the Supreme Courts in Sweden: An Oddity for Democracy?” *European Constitutional Law Review*, issue 3, 2019.

Mauro Zamboni, “Law-making in the face of the Migration Crisis: to find the best Legislative Policy (the Swedish Case),” *The Journal of Legislative Studies*, 2019.

Joshua Kassner, “An Essay in Defense of a Republican Understanding of the Relationship between Law and Liberty” in *The Value and Purpose of Law: Essays in Honor of M.N.S. Sellers*, (Stuttgart, Germany: Franz Steiner Verlag, 2019), pp. 57-76.

Kevin Ip, “Selecting Immigrants in an Unjust World.” *Political Studies*. (Published online 4 April 2019). DOI: <https://doi.org/10.1177/0032321719833885>

##### 【著書】

Frederik von Harbou and Jekaterina Markow eds. *Philosophie des Migrationsrechts*, Mohr Siebeck, 2020. 444 pp.

Kaoru Aoyama, ‘Researchers and Gatekeepers in Participatory Action Research in Japan’s Sex Industry’, in Dewey, Susan, Crowhurst, Isabel, Izugbara, Chimaraoke eds., *Routledge International Handbook of Sex Industry Research*, Routledge, pp. 90-101 in 620, 2019.

Ya-Han Chuang and Hélène Le Bail, (国際共著) ‘How marginality leads to inclusion: insights from mobilizations of Chinese female migrants in Paris’, *Ethnic and Racial Studies*, DOI: 10.1080/01419870.2019.1572907, 2019.

Kanchana Tangchonlatip, Berit Ingersoll-Dayton and Sureporn Punpuing, (国際共著) ‘Conflict in Skipped Generation Households in Thailand’, *The International Journal of Aging and Human Development*, DOI: 10.1177/0091415019871209, 2019.

## 5. 関連活動及び特記事項

(注) 複数の研究プロジェクトに所属されている先生で、研究成果の切り分けが難しく、複数のプロジェクトから成果として報告する場合は、その成果のあとに「※」印を付して下さい。

(1) 外部資金等(外部資金名(種目), 代表者名, 研究タイトル, 当該年度の受入金額を記載)

○外部資金名：科学研究費補助金

研究種目：基盤 B

代表者名：坂井一成

研究課題名：地中海の移民・難民問題と EU によるガバナンス形成—南欧諸国の戦略を軸に

受入金額： 2,900,000 円

○外部資金名：科学研究費補助金

研究種目：基盤 B

代表者名：青島陽子

研究課題名：ロシア帝国末期におけるナショナリズムと帝国統治構造の変容：西部境界地域を事例に

受入金額： 3,800,000 円

○外部資金名：科学研究費補助金

研究種目：基盤 B (特設分野研究)

代表者名：岡田浩樹

研究課題名：先端科学技術をめぐるオラリティに関する複合的研究-日本の宇宙開発を中心として

受入金額： 3,200,000 円

○外部資金名：科学研究費補助金

研究種目：基盤 B

代表者名：青山薫

研究課題名：グローバル性労働と人身取引の狭間にあるもの：聞き取りとネットワークの分析から

受入金額： 3,000,000 円

○外部資金名：科学研究費補助金

研究種目：基盤 B

代表者名：桜井徹

研究課題名：グローバル・ウェルフェアの実現と課題をめぐる文理協働型実証研究

受入金額： 4,200,000 円

○外部資金名：科学研究費補助金

研究種目：基盤 C

代表者名：桜井徹

研究課題名：集团的権利としての「民主主義への人権」の規範的正当性と理論的射程に関する研究

受入金額： 346,706 円

○外部資金名：科学研究費補助金

研究種目：基盤 C

代表者名：井上弘貴

研究課題名：環大西洋保守主義思想の形成と展開：社会改革思想との競合の思想史的検討

受入金額： 1,000,000 円

○外部資金名：科学研究費補助金

研究種目：基盤 C

代表者名：藤野一夫

研究課題名：文化政策による地域創生の戦略的研究

受入金額： 700,000 円

○外部資金名：科学研究費補助金

研究種目：基盤 C

代表者名：太田和宏

研究課題名：フィリピンの労働レジーム-グローバル資本主義下の自由化と伝統の接合

受入金額： 1,000,000 円

○外部資金名：JSPS 二国間交流事業共同研究

代表者名：吉井昌彦

研究課題名：日 EU・EPA/FTA と韓国 FTA との比較分析による日 EU 経済協力の展望

受入金額： 958,440 円 ※

○外部資金名：Jean Monnet Centre of Excellence

代表者名：吉井 昌彦

研究課題名：Consolidation of the Kobe Academic Base for EU Studies

受入金額：€70,740

(EU 負担：€56,592 神戸大学負担：€14,148)



日本円（固定レート 1€=130.32） ￥9,218,836

（EU 負担：￥7,375,069 神戸大学負担：￥1,843,767） ※

○外部資金名：JSPS 研究拠点形成事業（A.先端拠点形成型）

代表者名：坂井一成

研究題目：「コミュニティの再生を目指す移住・多文化・福祉政策の研究拠点形成」

受入金額：12,600,000 円

（2）受賞（賞名称，受賞対象，受賞者名，授与機関名，受賞年・月）（KUID にあわせる）

なし

（3）特論の実施内容

なし

（4）研究集会の開催（研究プロジェクトの活動と関連の深いものに限る）

研究集会名：グローバル・ガバナンス学会第12回研究大会

主催団体がある場合は主催団体：グローバル・ガバナンス学会、神戸大学国際文化学研究  
推進センター

開催日：2019年5月11日-12日

場所：神戸大学

研究集会名：JSPS 研究拠点形成事業「コミュニティの再生を目指す移住・多文化・福祉  
政策の研究拠点形成」2019 ナポリ・セミナー

開催日：2019年9月18日-19日

場所：ナポリ東洋大学

研究集会名：JSPS 研究拠点形成事業「コミュニティの再生を目指す移住・多文化・福祉  
政策の研究拠点形成」2020 神戸セミナー

開催日：2020年2月13日

場所：神戸大学

（5）その他，研究プロジェクトの活動と関連のある特記事項

なし

様式（年次報告書）

令和 2年 4月 21日

## 2019年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		市場経済の持続的成長可能性に関する研究
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		経済学研究科・羽森茂之
当該年度	研究員数	人（学術研究員，学振特別研究員（DC1, DC2は除く），外国人招へい研究員等）
	外部資金獲得実績	科学研究費補助金 12,130 千円，受託研究経費 千円， 奨学寄附金 千円，その他（ 千円）
	特許出願件数	件，論文発表件数 41 件，著書数 2 件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
羽森 茂之	経済学研究科・経済学専攻	研究プロジェクトリーダー
中村 保	経済学研究科・経済学専攻	研究分担者（経済成長側面の分析）
金京 卓司	経済学研究科・経済学専攻	研究分担者（国際金融側面の分析）
竹内 憲治	経済学研究科・経済学専攻	研究分担者（環境側面の分析）
衣笠 智子	経済学研究科・経済学専攻	研究分担者（人口・農業側面の分析）
茂木 快治	経済学研究科・経済学専攻	研究分担者（計量経済学の立場からのデータ解析）
田中 克幸	経済学研究科・経済学専攻	研究分担者（データサイエンスの立場からのデータ解析）
有木 康雄	都市安全研究センター	研究参画者
滝口 哲也	都市安全研究センター	研究参画者
陳 光輝	国際協力研究科・国際開発政策専攻	研究参画者
井上 武	国際協力研究科・国際開発政策専攻	研究参画者

佐藤 真行	人間発達学研究科・人間環境学専攻	研究参画者
辻 隆司	愛知大学・経済学部	研究参画者
Nori Tarui	University of Hawaii (MANOA), Department of Economics	研究参画者
Guifu Chen	Xiamen University, Center for Macroeconomic Research	研究参画者
Wanjun Yao	Nankai University, School of Economics	研究参画者
Yang Lu	Zhongnan University of Economics and Law, School of Finance	研究参画者
Youngho Chang	School of Business, Singapore University of Social Sciences	研究参画者

### 3. 研究成果の概要等について

本研究プロジェクトでは、「市場経済の持続的成長可能性に関する研究」という共通テーマのもと、研究統括者・研究分担者が研究参加者と協力をしながら、下記のテーマを中心とした関連課題に精力的に取り組んでいる。

- ・環境・エネルギー問題に関する持続的成長可能性の観点からの分析。
- ・人口及び食料問題に関する持続的成長可能性の観点からの分析。
- ・発展途上国の貧困・格差の問題に関する持続的成長可能性の観点からの分析。
- ・金融リスクに代表される外的ショックに対するリスクの視覚化とそれを用いた経済分析。

研究プロジェクトのアウトプットとして、国際カンファレンスでの研究報告、国際学術専門誌への論文発表、英文研究書の出版、等を通じた国際的な情報発信を積極的に行っている。また、海外の研究者の招聘等を通じた国際的ネットワークの構築等にも精力的に取り組んでいる。その結果、海外でも注目を集める国際的な研究プロジェクトとなりつつある。

本年度の研究統括者・研究分担者の主要な活動内容は以下の通り。

(1) プロジェクトメンバーの研究成果に対して、4件の受賞（Best Paper Award, SIBR 2020 Sydney Conference on Interdisciplinary Business & Economics Research; RIBER Best paper Prize; 第33回日本統計学会小川研究奨励賞，神戸大学令和元年度優秀若手研究者賞）を受け、プロジェクトの研究成果が内外で高い評価を得た。

(2) プロジェクトの研究成果として、45編の論文（英語論文は42編、国際共著は24編）、2冊の書籍、1篇の分担執筆、という形を通じて、研究成果の積極的な公表を行った。

(3) ハワイでの国際カンファレンス（International Conference on Applied Econometrics in Hawaii）の開催を含む8回の研究集会を開催し、内外の研究者との積極的な交流を深めた。

(4) プロジェクトメンバーが、11件の研究報告を行い、内外において研究成果の積極的な公表を行った。

(5) プロジェクトリーダーの羽森教授が、国際学術専門誌「Journal of Risk and Financial Management」と「Energies」のGuest EditorとしてSpecial Issueの編集を行った。

(6) プロジェクトリーダーの羽森教授が、International Engineering and Technology Institute の Executive Committee Member に選出され、海外の研究機関との積極的な学術交流に尽力した。

(7) プロジェクトリーダーの羽森教授が、国際学術専門誌「Journal of Risk and Financial Management」の Section Editor-in-Chief、「Energies」の Topic Editor、「SAGE Open」の Editorial Board、「Palgrave Communications」の Associate Editor、「Eurasian Economic Review」の Associate Editor に就任し、国際的な学術研究の推進に尽力をした。

(8) プロジェクトリーダーの羽森教授が、一般社団法人「デジタルトランスフォーメーション研究機構」の理事に就任し、産学連携を通じた研究推進に尽力した。

これらのより詳細な内容に関しては、以下を参照。

#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

##### 論文

###### [論文 1]

論文名 : A bi-annual forecasting model of currency crises

著者名 : Takuji Kinkyō

掲載誌, 巻, ページ : Applied Economics Letters, 27(4), 255-261. 2020

###### [論文 2]

論文名 : Dynamic effects of financial spillovers on bank lending: evidence from local projection-based impulse response analysis

著者名 : Chen, W., Hamori, S. and Kinkyō, T. (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Applied Economics Letters, 27(5), 400-405. 2019

###### [論文 3]

論文名 : Analyzing industry level vulnerability by predicting financial bankruptcy

著者名 : Tanaka, K., Higashide, T., Kinkyō, T. and Hamori, S.

掲載誌, 巻, ページ : Economic Inquiry 57(4), 2017-20. 2019

###### [論文 4]

論文名 : Growing influences of the Chinese renminbi on Asian exchange rates:

Evidence from a wavelet analysis of dynamic spillovers,

著者名 : Takuji Kinkyō

掲載誌, 巻, ページ : North American Journal of Economics and Finance, forthcoming

###### [論文 5]

論文名 : Time-frequency dynamics of exchange rates in East Asia

著者名 : Takuji Kinkyō

掲載誌, 巻, ページ : Research in International Business and Finance, 52, forthcoming

###### [論文6]

論文名 : Calibration estimation of semiparametric copula models with data missing at random

著者名 : Shigeyuki Hamori, Kaiji Motegi, and Zheng Zhang (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Journal of Multivariate Analysis, vol. 173, pp. 85-109. 2019

[論文7]

論文名 : A max-correlation white noise test for weakly dependent time series  
著者名 : Jonathan B. Hill and Kaiji Motegi (国際共著)  
掲載誌, 巻, ページ : Econometric Theory, forthcoming

[論文8]

論文名 : Moving average threshold heterogeneous autoregressive (MAT-HAR) models  
著者名 : Kaiji Motegi, Xiaojing Cai, Shigeyuki Hamori, and Haifeng Xu (国際共著)  
掲載誌, 巻, ページ : Journal of Forecasting, forthcoming.

[論文9]

論文名 : Does a Small Difference Make a Difference? Impact of Feed-in Tariff  
on Renewable Power Generation in China  
著者名 : Du, Y., and Takeuchi, K. (国際共著)  
掲載誌, 巻, ページ : Energy Economics, forthcoming.

[論文10]

論文名 : Cleaning Up the Air for the 2008 Beijing Olympic Games: Empirical  
Study on China's Thermal Power Sector  
著者名 : Ma, T., and Takeuchi, K. (国際共著)  
掲載誌, 巻, ページ : Resource and Energy Economics, forthcoming.

[論文 11]

論文名 : The Spatial Concentration of Waste Landfill Sites in Japan  
著者名 : Ishimura, Y., and Takeuchi, K.  
掲載誌, 巻, ページ : Resource and Energy Economics,58,101-121, 2019.

[論文12]

論文名 : Preventing Peatland Fire in Central Kalimantan, Indonesia: The Role  
of Economic Incentives and Social Norms  
著者名 : Yamamoto, Y., Takeuchi, K., and Köhlin, G. (国際共著)  
掲載誌, 巻, ページ : Journal of Forest Economics,35(2-3),207-227, 2019.

[論文13]

論文名 : Can Climate Mitigation Help the Poor? Measuring Impacts of the CDM  
in Rural China  
著者名 : Du, Y., and Takeuchi, K. (国際共著)  
掲載誌, 巻, ページ : Journal of Environmental Economics and Management,95,178-197. 2019

[論文14]

論文名 : Household Energy Expenditure in Ghana: A Double-Hurdle Model Approach  
著者名 : Adusah-Poku, F., and Takeuchi, K. (国際共著)  
掲載誌, 巻, ページ : World Development, 117, 266-277. 2019

[論文15]

論文名 : Determinants and Welfare Impacts of Rural Electrification in Ghana  
著者名 : Adusah-Poku, F., and Takeuchi, K. (国際共著)  
掲載誌, 巻, ページ : Energy for Sustainable Development, 52, 52-62. 2019

[論文16]

論文名 : Energy Poverty in Ghana: Any Progress So Far?  
著者名 : Adusah-Poku, F., and Takeuchi, K. (国際共著)  
掲載誌, 巻, ページ : Renewable and Sustainable Energy Reviews, 112, 853-864. 2019

[論文17]

論文名 : Climate Agreement and Technology Diffusion: Impact of the Kyoto Protocol  
on International Patent Applications for Renewable Energy Technologies  
著者名 : Miyamoto, M., and Takeuchi, K.  
掲載誌, 巻, ページ : Energy Policy, 129, 1331-1338. 2019.

[論文18]

論文名 : Do Battery-Switching Systems Accelerate the Adoption of Electric Vehicles?  
A Stated Preference Study  
著者名 : Ito, N., Takeuchi, K., and Managi, S.  
掲載誌, 巻, ページ : Economic Analysis and Policy, 61, 85-92. 2019

[論文19]

論文名 : Rebound Effect Across Seasons: Evidence from the Replacement of Air  
Conditioners in Japan  
著者名 : Mizobuchi, K., and Takeuchi, K.  
掲載誌, 巻, ページ : Environmental Economics and Policy Studies, 21(1), 123-140.  
2019

[論文 20]

論文名 : Dynamic Efficiency in World Economy  
著者名 : Kevin Luo, Tomoko Kinugasa and Kai Kajitani (国際共著)  
掲載誌, Prague Economic Papers, forthcoming



[論文 21]

論文名 : Dynamic Efficiency in World Economy Challenges for China's economic development: the saving glut and policy implication

著者名 : Kevin Luo and Tomoko Kinugasa (国際共著)

掲載誌, International Journal of Economic Policy Studies, Vol.14, pp.47-75, 2020.

[論文 22]

論文名 : 温州みかんの栄枯盛衰に関する計量的分析

著者名 : 松尾隆策・山口三十四・衣笠智子

掲載誌, 国民経済雑誌, 第 220 巻第 3 号, pp.75-87, 2019 年。

[論文 23]

論文名 : 二つの人口ボーナスの貯蓄と経済成長への影響に関する計量的研究

著者名 : 衣笠智子

掲載誌, 国民経済雑誌, 第 221 巻第 3 号, pp.17-28, 2019 年。

[論文 24]

論文名 : Complexity of financial stress spillovers: Asymmetric impacts and intersection effects of institutional quality and foreign bank ownership,

著者名 : Chen, W., Hamori, S., and Kinkyu, T. (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : North American Journal of Economics and Finance, Vol.48, pp.567-581.2019

[論文 25]

論文名 : An Empirical Analysis of Marital Status in Japan

著者名 : Yasuda, K., Kinugasa, T. and Hamori, S.

掲載誌, 巻, ページ : Singapore Economic Review, Vol.64, No.03, pp.773-798. 2019

[論文 26]

論文名 : Conditional Dependence between Oil Prices and Exchange Rates in BRICS Countries: An Application of the Copula-GARCH Model,

著者名 : He, Y. and Hamori, S

掲載誌, 巻, ページ : Journal of Risk and Financial Management, 12(2), pp.1-26. 2019.

[論文 27]

論文名 : The long-run relationship between farm size and productivity: A re-examination based on Chinese panel data,

著者名 : Yao, W and Hamori, S. (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : China Agricultural Economic Review, Vol.11(2), pp.373-386. 2019.

[論文 28]

論文名 : Asymmetric technological distance measure based on language model

著者名 : Tanaka, K., Kinkyo, T., and Hamori, S.

掲載誌, 巻, ページ : Applied Economics Letters, Vol.26 (18), pp.1548-1551. 2019.

[論文 29]

論文名 : Connectedness Between Natural Gas Price and BRICS Exchange Rates: Evidence from Time and Frequency Domains

著者名 : He, Y., Nakajima, T., and Hamori, S.,

掲載誌, 巻, ページ : Energies, 12(20), pp.1-28. 2019

[論文 30]

論文名 : Determinants of the Long-Term Correlation between Crude Oil and Stock Markets

著者名 : Yang, L., Yang, L., Ho, K.-C., and Hamori, S. (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Energies, 12(21), pp.1-15, 2019

[論文 31]

論文名 : Application of Network Analysis to Cryptocurrency in the Global Financial Market

著者名 : Terada, I. and Hamori, S.

掲載誌, 巻, ページ : Review of Integrative Business & Economics Research, , Vol.9 (4), pp.19-35.2020

[論文 32]

論文名 : Multi-Horizon Dependence between Crude Oil and East Asian Stock Markets and Implications in Risk Management

著者名 : Cai, X-J., Hamori, S., Yang, L., and Tian, S. (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Energies, 13(2), pp.1-24, 2020.

[論文 33]

論文名 : Co-movements in commodity markets and implications in diversification benefits  
著者名 : Xiao Jing Cai, Zheng Fang, Youngho Chang, Shuairu Tian & Shigeyuki Hamori  
(国際共著)  
掲載誌, 巻, ページ : Empirical Economics, 58(2), pp.393-425, 2020.

[論文 34]

論文名 : How Does the Spillover among Natural Gas, Crude Oil, and Electricity Utility  
Stocks Change over Time?: Evidence from North America and Europe,  
著者名 : Wenting Zhang, Xie He, Tadahiro Nakajima, Shigeyuki Hamori (国際共著)  
掲載誌, 巻, ページ : Energies, 13(3), pp.1-26., 2020.

[論文 35]

論文名 : Does ensemble Learning Always Lead to Better Forecasts?  
著者名 : Hitoshi Hamori and Shigeyuki Hamori  
掲載誌, 巻, ページ : Applied Economics and Finance, 7 (2), pp.51-56, 2020.

[論文 36]

論文名 : The Predictability of the Exchange Rate When Combining Machine Learning and  
Fundamental Models  
著者名 : Yuchen Zhang, Shigeyuki Hamori (国際共著)  
掲載誌, 巻, ページ : Journal of Risk and Financial Management, 13(3), pp.1-16, 2020.

[論文 37]

論文名 : Can One Reinforce Investments in Renewable Energy Stock Indices with the ESG  
Index?  
著者名 : Guizhou Liu, Shigeyuki Hamori (国際共著)  
掲載誌, 巻, ページ : Energies, 13(5), pp.1-21, 2020.

[論文 38]

論文名 : Forecasting WTI Futures Prices Using Recurrent Neural Networks  
著者名 : Kohei Matsuoka and Shigeyuki Hamori  
掲載誌, 巻, ページ : Review of Integrative Business & Economics Research, 10(1), pp.34-  
50, 2021.

[論文 39]

論文名 : Energy and Human Capital: A Driver or Drag for Economic Growth  
著者名 : Fang Z., Chang, Y. and Hamori, S. (国際共著)  
掲載誌, 巻, ページ : Singapore Economic Review, forthcoming.

[論文 40]

論文名 : Spillover Effects between Energies, Gold, and Stock: The United States versus China

著者名 : Xie He, Tetsuya Takiguch, Tadahiro Nakajim, and Shigeyuki Hamori (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Energy and Environment, forthcoming.

[論文 41]

論文名 : 「アンサンブル学習とニューラルネットワーク : "じゃらん"データを使った分析」

著者名 : 長谷川博康・羽森茂之

掲載誌, 巻, ページ : 『国民経済雑誌』第 220 巻 第 3 号 pp.17-29, 2019.

[論文 42]

論文名 : On the long-run wealth distribution in a Ramsey model with heterogeneous households

著者名 : Tamotsu Nakamura

掲載誌, 巻, ページ : Economic Modelling, Vol. 84, 177-180, 2020.

[論文 43]

論文名 : Population growth and intergenerational mobility

著者名 : Hiroki Aso and Tamotsu Nakamura

掲載誌, 巻, ページ : Applied Economics Letters, 2019.

[論文 44]

論文名 : Size, Internationalization, and University Rankings: Evaluating and Predicting Times Higher Education (THE) Data for Japan

著者名 : Michael McAleer, Tamotsu Nakamura and Clinton Watkins (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Sustainability, 11(5:1366), 1-12, 2019,

[論文 45]

論文名 : An Inverted U-Shaped Relationship between Public Debt and Economic Growth under the Golden Rule of Public Finance”

著者名 : Mitsuru Ueshina and Tamotsu Nakmaura

掲載誌, 巻, ページ : Theoretical Economics Letters 09(06), 1792-1803, 2019,

## 著書

### [著書 1]

著書 : Financial Inclusion, Remittance Inflows, and Poverty Reduction in Developing Countries: Evidence from Empirical Analyses (共著)

著者名 : Takeshi Inoue and Shigeyuki Hamori

発行所, 発行年 : World Scientific, 2019

### [著書 2]

著書 : Shigeyuki Hamori (編著)

著者名 : Empirical Finance

発行所, 発行年 : MDPI AG, 2019

## 分担執筆

### [分担執筆 1]

著書 : Contemporary Issues in Applied Economics (編著)

編著者名 : Hosoe, Ju, Yakita and Hong

ページ : 75-88

発行所, 発行年 : Springer, 2019 年

Ramsey's Conjecture in a Stochastically Growing Economy, Chapter 4  
in Contemporary Issues in Applied Economics, 75-88, 2019, DOI: 10.1007/978-981-13-7036-6\_4

## 5. 関連活動及び特記事項

### (1) 外部資金等

外部資金名：科学研究費助成事業

研究種目：基盤研究（A）

代表者名：羽森茂之

研究課題名：データサイエンスのアプローチによる金融リスク管理とその波及メカニズムに関する研究

2019年度受入金額：11,570千円（直接経費と間接経費の合計額）

研究期間：2017年4月～2021年3月

課題番号：17H00983

外部資金名：科学研究費助成事業

研究種目：若手研究

代表者名：茂木快治

研究課題名：因果推論、欠損データ分析、コンピュータモデルを結びつける革新的アプローチ

2019年度受入金額：1,560円（直接経費と間接経費の合計額）

研究期間：2019年4月～2022年3月

課題番号：19K13670

### (2) 受賞

#### [受賞 1]

賞名称：Best Paper Award

受賞対象：SIBR 2020 Sydney Conference on Interdisciplinary Business & Economics Research での研究報告

受賞者名：Kohei MATSUOKA, Shigeyuki HAMORI

授与機関名：Society of Interdisciplinary Business Research (SIBR)

受賞年・月：2020年1月

#### [受賞 2]

賞名称：RIBER Best paper Prize

受賞対象：Forecasting WTI Futures Prices Using Recurrent Neural Networks. Review of Integrative Business and Economics Research, Vol. 10(1), 34-50.

受賞者名：Kohei Matsuoka, Shigeyuki Hamori

授与機関名：Review of Integrative Business and Economics Research

受賞年・月：2020年2月

[受賞 3]

賞名称：第 33 回日本統計学会小川研究奨励賞

受賞対象：茂木快治 個人

受賞者名：茂木快治

授与機関名：一般社団法人 日本統計学会

受賞年・月：2019 年 9 月

[受賞 4]

賞名称：神戸大学令和元年度優秀若手研究者賞

受賞対象：茂木快治 個人

受賞者名：茂木快治

授与機関名：国立大学法人 神戸大学

受賞年・月：2020 年 1 月

(3) 研究集会の開催

[研究集会 1]

研究集会名：International Conference on Applied Econometrics in Hawaii

主催団体：神戸大学大学院経済学研究科、神戸大学社会システムイノベーションセンター、神戸大学先端融合研究環、神戸大学六甲台後援会、神戸大学連携推進機構米州交流室

開催日：2019 年 9 月 17,18 日

場所：アラモアナ・ホテル（米国ハワイ州オアフ島ホノルル市）

参加大学：漢陽大学（韓国）、国立台湾大学（台湾）、南洋理工大学（シンガポール）、ハワイ大学（アメリカ合衆国）、神戸大学（日本）

基調講演：Timothy Halliday 教授（ハワイ大学マノア校経済学部長）

基調講演論題：Expanding Health Insurance for the Elderly of the Philippines

[研究集会 2]

研究集会名：六甲フォーラム

主催団体：神戸大学大学院経済学研究科

開催日：2019 年 6 月 25 日

場所：神戸大学六甲台第 1 キャンパス 第三学舎中会議室

講演者：Tatsuyoshi Okimoto Choi (Australian National University)

講演論題：The Effects of Asset Purchases and Normalization of US Monetary Policy

[研究集会 3]

研究集会名：六甲フォーラム

主催団体：神戸大学大学院経済学研究科

開催日：2019年7月19日

場所：神戸大学六甲台第1キャンパス 第三学舎中会議室

講演者：東出 卓朗 氏 (ニッセイアセットマネジメント/中央大学)

講演論題：Application of First Passage Time to Pair's Portfolio Construction

[研究集会 4]

研究集会名：六甲フォーラム

主催団体：神戸大学大学院経済学研究科

開催日：2019年11月28日

場所：神戸大学六甲台第1キャンパス 第三学舎中会議室

講演者：.Mehmet H. Bilgin (Istanbul Medeniyet University)

講演論題：A novel index of macroeconomic uncertainty for Turkey based on Google-Trends.

[研究集会 5]

研究集会名：六甲フォーラム

主催団体：神戸大学大学院経済学研究科

開催日：2019年11月28日

場所：神戸大学六甲台第1キャンパス 第三学舎中会議室

講演者：.Mehmet H. Bilgin (Istanbul Medeniyet University)

講演論題：A novel index of macroeconomic uncertainty for Turkey based on Google-Trends.

[研究集会 6]

研究集会名：六甲フォーラム

主催団体：神戸大学大学院経済学研究科・神戸大学経済経営研究所

開催日：2019年12月11,12日

場所：神戸大学六甲台第1キャンパス 経済研究所会議室

講演者：. Keukwan Ryu (Seoul National University, Korea)

講演論題：

Lec1：2019年12月11日(水) 15:10~16:40

Overview of Econometrics "Statistical inference: Classical vs. Bayesian approaches (Hypothesis testing vs. Model selection, Objective oriented inferences, Lindley's paradox) Classification: Direct vs. Indirect, Simple vs. Detailed

Lec2：2019年12月12日(木) 13:30~15:00

Direct Classification "Conditional independence assumption (CIA), matching



vs. multiple regression, propensity score matching (PSM), difference in differences (DinD)"

Lec3 : 2019 年 12 月 12 日(木) 15:10~16:40

Indirect Classification "Observables vs. unobservables, instrumental variables (IV), treatment heterogeneity and LATE, regression discontinuity (RD)

[研究集会 7]

研究集会名 : 六甲フォーラム

主催団体 : 神戸大学大学院経済学研究科

開催日 : 2019 年 8 月 1 日

場所 : 神戸大学六甲台第 1 キャンパス 第三学舎中会議室

講演者 : YoungJin Choi (Temple University)

講演論題 : International transmissions of U.S. monetary policy and household debt

[研究集会 8]

研究集会名 : 六甲フォーラム

主催団体 : 神戸大学大学院経済学研究科

開催日 : 2020 年 2 月 6 日

場所 : 神戸大学六甲台第 1 キャンパス 第一学舎大会議室

講演者 : Wei Huang (University of Melbourne)

講演論題 : Estimating the covariance of fragmented and other related types of functional data

(5) その他, 研究プロジェクトの活動と関連のある特記事項

研究発表

[研究発表 1]

研究集会名 : The 15th International Symposium on Econometric Theory and Applications (SETA 2019)

主催団体 : Graduate School of Economics, Osaka University

開催日 : June 1-2, 2019

場所 : Toyonaka Campus, Osaka University

講演者 : Kaiji Motegi

講演論題 : A max-correlation white noise test for weakly dependent time series

報告言語 : English

[研究発表 2]

研究集会名 : Regular session, 2019 Japanese Joint Statistical Meeting  
主催団体 : Japanese Federation of Statistical Science Associations  
開催日 : September 8-12, 2019  
場所 : Hikone Campus, Shiga University  
講演者 : Kaiji Motegi  
講演論題 : Copula-based regression models with responses missing at random:  
A unified approach  
報告言語 : English

[研究発表 3]

研究集会名 : 2019 年度統計関連学会連合大会, 「第 33 回日本統計学会小川研究  
奨励賞」授賞記念講演  
主催団体 : 統計関連学会連合  
開催日 : 2019 年 9 月 8 日~12 日  
場所 : 滋賀大学彦根キャンパス  
講演者 : 茂木快治  
講演論題 : Testing a large set of zero restrictions in regression models, with  
an application to mixed frequency Granger causality  
報告言語 : 日本語

[研究発表 4]

研究集会名 : Departmental seminar  
主催団体 : Department of Economics, University of Essex  
開催日 : September 23, 2019  
場所 : Department of Economics, University of Essex  
講演者 : Kaiji Motegi  
講演論題 : Copula-based regression models with data missing at random: A  
unified approach  
報告言語 : English

[研究発表 5]

研究集会名 : 計量経済学ワークショップ  
主催団体 : 慶應義塾大学経済研究所  
開催日 : 2019 年 12 月 3 日  
場所 : 慶應義塾大学三田キャンパス  
講演者 : 茂木快治  
講演論題 : Copula-based regression models with data missing at random: A  
unified approach  
報告言語 : 日本語

[研究発表 6]

研究集会名 : SIBR 2019 OSAKA CONFERENCE ON INTERDISCIPLINARY  
BUSINESS & ECONOMICS RESEARCH

主催団体 : The Society of Interdisciplinary Business Research

開催日 : 2019 年 7 月 4 日

場所 : Ark Hotel

講演者 : 羽森茂之

講演論題 : Application of Network Analysis to Cryptocurrency in the Global  
Financial Market

報告言語 : 英語

[研究発表 7]

研究集会名 : Singapore Economic Review Conference 2019

主催団体 : Singapore Economic Review

開催日 : 2019 年 8 月 7 日

場所 : Madarin Orchard (Singapore)

講演者 : 羽森茂之

講演論題 : Financial Hazard Map

報告言語 : 英語

[研究発表 8] (招待講演)

研究集会名 : Singapore Economic Review Conference 2019

主催団体 : Singapore Economic Review

開催日 : 2019 年 8 月 6 日

場所 : Madarin Orchard (Singapore)

講演者 : Xie He and Shigeyuki Hamori

講演論題 : Return and Volatility Spillovers Across the Energy and Carbon  
Markets: New Evidence from the Time-Frequency Domain

報告言語 : 英語

[研究発表 9]

研究集会名 : Singapore Economic Review Conference 2019

主催団体 : Singapore Economic Review

開催日 : 2019 年 8 月 6 日

場所 : Madarin Orchard (Singapore)

講演者 : Guizhou Liu and Shigeyuki Hamori

講演論題 : Modeling the Dependence Between the Carbon Futures Market and  
Renewable Energy Stock Indices

報告言語 : 英語

[研究発表 10]

研究集会名：SIBR 2020 Sydney Conference on Interdisciplinary Business & Economics Research

主催団体：The Society of Interdisciplinary Business Research

開催日：2020年1月11日

場所：Vibe Hotel Sydney (Australia)

講演者：羽森茂之

講演論題：Forecasting WTI Futures Prices Using Recurrent Neural Networks

報告言語：英語

[研究発表 11]

研究集会名：第24回 人工知能学 金融情報学研究会 (SIG-FIN)

主催団体：人工知能学 金融情報学研究会

開催日：2020年3月14-15日

講演者：吉見脩平・江口浩二・金京拓司・羽森茂之

講演論題：多相アテンション LSTM を用いた財務時系列データの予測

報告言語：日本語

その他

- [1] 2019年5月：プロジェクトリーダーの羽森教授が国際学術専門誌「Energies」の Guest Editor として Special Issue 「Empirical Analysis of Natural Gas Markets」の編集を行うこととなり、原稿の募集を開始した。
- [2] 2019年5月：プロジェクトリーダーの羽森教授が国際学術専門誌「Journal of Risk and Financial Management」の Guest Editor として Special Issue 「AI and Financial Markets」の編集を行うこととなり、原稿の募集を開始した。
- [3] 2019年6月：プロジェクトリーダーの羽森教授が国際学術専門誌「Journal of Risk and Financial Management」の Section "Financial Technology and Innovation" の Editor-in-Chief に就任した。
- [4] 2019年6月：プロジェクトリーダーの羽森教授が一般社団法人「デジタルトランスフォーメーション研究機構」の理事に就任した。
- [5] 2019年8月：プロジェクトリーダーの羽森教授が国際学術専門誌「Energies」の Topic Editor に就任した。

- [6] 2019年8月：プロジェクトリーダーの羽森教授が国際学術専門誌「SAGE Open」の Editorial Board に就任した。
- [7] 2019年8月：プロジェクトリーダーの羽森教授が国際学術専門誌「Palgrave Communications」の Associate Editor に就任した。
- [8] 2019年12月：プロジェクトリーダーの羽森教授が国際学術専門誌「Eurasian Economic Review」の Associate Editor に就任した。
- [9] 2020年3月：プロジェクトリーダーの羽森教授が International Engineering and Technology Institute (IETI) の Executive Committee Member (EC Member) に選出された。

様式（年次報告書）

令和 2 年 5 月 7 日

## 2019年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		貧困削減のための持続可能なコミュニティ開発	
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		国際協力研究科 島村 靖治	
当該年度	研究員数	12人（学術研究員，学振特別研究員（DC1, DC2 は除く），外国人招へい研究員等）	
	外部資金 獲得実績	科学研究費補助金 12506 千円，受託研究経費 千円， 奨学寄附金 千円，その他（ 9700 千円）	
	特許出願件数	0 件，	論文発表件数 10 件， 著書数 1 件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
島村 靖治	国際協力研究科	研究代表者(農業・応用経済学)
山崎 幸治	国際協力研究科	共同研究者(経済学)
伊藤 高弘	国際協力研究科	共同研究者(経済学)
佐藤 希	国際協力研究科	学術博士(ジェンダー研究、インド)
長野 宇規	農学研究科	共同研究者(地域計画学)
上曾山 博	農学研究科	共同研究者(栄養代謝学)
中澤 港	保健学研究科	共同研究者(国際保健学)
亀岡 正典	保健学研究科	共同研究者(感染症対策)
諸岡 育美	国際協力研究科 在ベトナム日本大使館	博士後期課程(ベトナム) 専門調査員
浅岡 浩章	国際協力研究科 国際協力機構(JICA)研究所	博士後期課程(ミャンマー) 主任研究員
津坂 卓志	先端融合研究環 アジア工科大学院	共同研究者(経済学)
高松 紳也	世界銀行コンサルタント	共同研究者(応用経済学)

### 3. 研究成果の概要等について

#### [農業]

- インドにおいて実施されている女性自助組織を基盤としたマイクロ・ファイナンスに関する研究に関しては文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に採択され、ウィスコンシン大学マディソン校との共同研究を更に進めることができた。女性自助組織を基盤としたマイクロ・ファイナンスは家畜ビジネスへの投資を促進し、貧困削減ならびに女性のエンパワーメントを目指す事業であるが、我々の研究チームでは当該事業の持続可能性を女性自助組織活動の家族からの理解、支援という観点から検証を行っている。インドのような男性優位社会において女性のエンパワーメントが進むことは既存の社会制度や社会規範への挑戦と受けとられかねず、時として夫から妻への暴力行為を誘発してしまう可能性がある。我々の研究では、同じく家庭内暴力と密接な関係にあると考えられている婚姻時の持参金(ダウリー)という社会的慣習を考慮にいたした分析を行っている。関連した1本の論文はジェンダー分野で著名な国際学会誌の査読プロセスにのっており、今年度は2度目の改定作業を終えたところである。また、もう1本の論文についても査読付き国際学会誌に投稿を完了した。

- 2017年度に神戸大学と全学協定を締結したベトナム、フエ農林大学との共同研究である地域未使用資源を活用した鶏の飼育に関する研究については、最初の段階として、鶏の飼育に関する1本の研究論文を自然科学系の学会誌に公刊。同時に、科学研究費挑戦的研究(萌芽)「新興国における農村フィールド実験と医療データベースを結合した政策シミュレーション」に関連する研究として、地域未使用資源を活用した鶏の餌付けに関する新たな知識が農村でどのように広がっていくのか？そして、その社会・経済効果、とりわけ人々の健康状態に与える影響はどのようなものであるか？を検証するためのフィールド実験を実施した。

- 並行して、既存の持続可能な農業技術の知識に関する情報伝搬についての研究も進めている。2019年度は家畜の糞尿を活用した有機肥料の利用に関する研究を進めた。具体的には、有機肥料を使った農法に関する技術普及における社会ネットワークの役割について分析した2本の論文をまとめ査読付き国際学会誌への投稿を完了している。新しい技術の普及においては、農業普及員によるフォーマルな技術研修を通じたルートに加え、友人や隣人、知人を通じた情報の伝搬というインフォーマルなルートを通じた知識の伝搬が考えられる。1本目の論文では、ベトナム全土の比較的広範囲な地域で収集されたデータを用い、こうした2つのルートのうちどちらのルートがより効果的に技術の普及に役立っているかを検証している。2本目の論文では、ベトナム中部の農村で行った独自調査データを使い、特にインフォーマルなルートについて、夫と妻の社会的ネットワークのどちらが農業技術の普及にとってより重要か？ジェンダー研究の視点から分析している。

- 更に、ベトナム中部の農村で近年急速にその普及が進んでいるKH1というコメの新しい品種の導入についての研究も進めた。有機肥料の利用に関する研究と同様、フォーマル、インフォーマル、両方のルートを通じた技術普及について比較研究を進めているが、これまでの研究から農業普及員による技術研修は新しい技術を初めて導入する際に効果的である一方、翌年以降も継続してその技術を使い続けるかについては友人や隣人、知人

の行動を参考にしていることが明らかとなった。こうした研究結果をまとめ、学会での研究発表を行うと共に、研究成果をまとめた論文を国際学術誌へ投稿したところである。

- バイオエコノミーに関する研究については、定期的に研究会を開催している。そして、2019 年はノルウェーのバイオエコノミー研究所との共同研究の集大成として、これまでの研究業績をまとめた著書“The Bioeconomy Approach: Constraints and Opportunities for Sustainable Development”を出版。持続可能な開発に向け、生態系サービスとの相互作用を主眼に置いた問題提起をしている。

- アジア工科大学との農業及び自然資源管理に関する研究では、(1)マラウイにおけるキマメと落花生生産の衛星情報を使った変化観察、(2)タイにおける仮想評価法を用いたマングローブ資源の価値評価、(3)金魚養殖における海藻を使った大型藻類密度と塩分の最適化、(4)タイにおける海藻を用いた金魚養殖後排水処理の線形回帰分析、の計 4 本の論文を査読付き国際学術誌に発表している。

### [医療保健]

- 科学研究費国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）「インドシナ半島におけるプライマリ・ヘルスケア・システムの国際比較」研究を更に進めた。本研究は、2015 年に国連で採択された Sustainable Development Goals(SDGs)の第 3 重要課題に設定された「健康な暮らし及び厚生への促進」に関連した研究課題に対して、既存データならびに現地調査を通して収集する独自データを用いて取り組むことを目的としている。2019 年度は、医療保険の拡大と医療サービスの需給の変化を分析した論文を査読付き国際学術誌に公開した。本論文では、ベトナム統計局が 2002 年から隔年で実施している全国規模の家計調査データを用い、省別の保険加入率の変化の違いを利用して医療サービスの需要・供給、双方の保険加入率の増加に対する応答を分析している。ベトナムの公的医療施設は中央レベル、省レベル、郡レベル、村落レベルの 4 層の構造をしている。2014 年までのデータを用いた分析結果は保険加入率の増加と共に入院日数などが増加していたことを示す一方で、供給側の増加は省レベルの医療施設における医療従事者の増加に限られていたことを示している。加えて、需要面でも外来受診数に明確な変化は確認できず、また自己負担額の減少を確認することもできなかった。こうした 10 年以上の長期に渡るベトナム全土で収集されたデータを使った研究から得られた知見は医療皆保険制度の導入を計画する他の新興国にとっても極めて有益な情報を提供している。

- 更に、同じく 10 年以上の長期に渡るベトナム全土のデータを用い、医療保険の加入者側の特徴を探った論文もまとめたところである。ベトナム政府は 2020 年に皆保険の達成を目標としているが、2016 年時点で約 8 割の加入率となっている。本研究では残り 2 割の保険未加入の人々がどのような人々なのかを探ると共に、特に保険市場で資源配分の非効率の原因とされる「情報の非対称性」の問題はいつまで残るのかについても検証を行った。結果、加入率が人口全体の約 8 割に達した後も、自営業に携わる人々や中小企業に務める人々、専業主婦の間での加入率は未だ低く、こうした人々を対象とした医療保険の市場においては「情報の非対称」の問題が深刻な問題として残っていることがわかった。

- 既存データを用いた研究に加え、ベトナム中部で行った独自の現地調査データを使った保険加入の分析として (ア)保険料の家族割引制度、(イ)リファラル(紹介状)制度の改正と



いった 2016 年に導入された新たな政策の効果に着目した分析を進めた。そして、リファラル制度の改正は医療施設間の競争を促進させることから(ウ)リファラル制度の改正が医療施設で提供される医療サービスの質の向上につながったかどうか?についても分析を進めた。こうした一連の研究成果について学会で発表を行っている。

- アジア工科大学院との医療保健分野における共同研究では、次の3本の論文を学術誌に公刊した。(1) マラウィにおける落花生、トウモロコシ、ソルガムの収穫前後処理技術による食品毒管理に関する現状調査、(2)タンザニア中部における小児低栄養改善トレーニングの個人レベル影響評価、(3)インドにおけるミレット料理を用いた学校給食メニューの低栄養改善への影響評価。

- 加えてインドネシアでは、神戸大学が全学協定を締結しているガジャマダ大学医療看護学部と協力し、ヘルス・ボランティア(カデル)のワークモチベーションに関するフィールド調査を実施。医療人材が不足しがちな農村部において重要な役割を果たすヘルス・ボランティアが報酬を受けることなく活動を続けている、その理由を探るためジョグジャカルタ郊外のヘルスポスト(ポシアンドゥ)でインタビュー調査を行った。我々の研究では、ワークモチベーションに関する因子分析を行うと共に、ワークモチベーションとカデルの医療知識やスキルとの関係も検証している。

#### [インフラストラクチャー]

- SDGs では第 6 課題としてとり上げられている「安全な水へのアクセス」は生活を支える重要な要素の一つである。国際協力機構(JICA)研究所およびアジア工科大学院とのミャンマーでの共同研究、マンダレー市都市配管給水施設の社会・経済効果についての研究については 2019 年にエンドライン調査を実施した。同時に 2018 年に実施したベースラインデータを用いたボトル水および地下井戸の利用に関する需要分析を行い、また都市配管給水からの水道サービスに対する支払い意思の分析を行った。更に、水へのアクセスと人々の生活満足度や主観的幸福度との関係について水へのアクセスを水源、水質、水量の 3 つの観点から分析した。

- 同じく JICA 研究所との共同研究であるモロッコでは地方道路整備事業の研究に関しては、既に 2011 年にベースライン調査を 2017 年にエンドライン調査を実施済であるが、2019 年度に改めてフォローアップ調査を実施した。2019 年の調査では、モロッコの 5 地方を対象に、地方道路整備事業が若者の進路に与える影響を分析した。本研究では、若者の進路を「移動」「就業」「就学」の 3 つの視点から分析し、地方道路整備事業が若者の間で各々の地域に留まる傾向を強め、地域内での農業関係の賃労働への就業を増加させていることを明らかにした。加えて、就学に関しては前期中等教育課程での就業率が改善されてことが示された。対照的に、地域を超えた若者の就業や就学には大きな変化はみられなかった。

- ミャンマーでの都市配管給水事業、モロッコでの地方道路整備事業の研究から得られた知見に関しては、国際開発学会の全国大会において JICA 研究所と共同で企画セッションを開催し、研究成果の発表を行った。

#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

##### [論文]

論文名：南インドにおけるダウリー習慣と家庭内暴力  
—女性自助組織への参加はダウリーと家庭内暴力との関係をどのように変化させたか—  
著者名：佐藤希、島村靖治  
国民経済雑誌 (査読無) 第 219 巻第 6 号 35-52 頁, 2019 年

論文名：Fermenting rice bran and maize with *Saccharomyces cerevisiae* and feeding the fermented product to chickens.  
著者名：Phan T. H., Tran T.H., Tran S.T., Nguyen H.Q., Tran T.N., Le D.T., Shimamura, Y., Kamisoyama H., and Duong T.H. (国際共著)  
Journal of Livestock Research and Rural Development (査読有), Vol.32(2) on-line edition, 2020.

論文名：Analysis on demand- and supply-side responses during the expansion of health insurance coverage in Vietnam: Challenges and policy implications toward universal health coverage.  
著者名：Matsushima, M., Yamada, H., and Shimamura, Y.  
Review of Development Economics (査読有), Vol. 24(1), PP.144-166, 2020.

論文名：Monitoring Changes in the Cultivation of Pigeonpea and Groundnut in Malawi Using Time Series Satellite Imagery for Sustainable Food Systems.  
著者名：Gumma, M. K., Tsusaka, T.W., Mohammed, I., Chavula, G., GangaRao, N. V. P. R., Okori, P., Ojiewo, C. O., Varshney, R., Siambi, M., and Whitbread, A. (国際共著)  
Remote Sensing (Switzerland) (査読有), Vol.11(12), P.1475, 2019.

論文名：Assessment of Local Perception on Eco-industrial Estate Performances after 17 years of Implementation in Thailand.  
著者名：Yamsrual, S., Sasaki, N., Tsusaka, T.W., Winijkul, E. (国際共著)  
Environmental Development (査読有), Vol.32, 100457, 2019.

論文名：Optimization of Macroalgal Density and Salinity for Nutrient Removal by *Caulerpa lentillifera* from Aquaculture Effluent.  
著者名：Bambaranda, B.V.A.S.M., Sasaki, N., Chirapart, A., Salin, K.R., Tsusaka, T.W. (国際共著)  
Processes (Switzerland) (査読有), Vol.7(5), P. 303, 2019.

論文名：Capacity of *Caulerpa lentillifera* in the Removal of Fish Culture Effluent in a Recirculating Aquaculture System.

著者名 : Bambaranda, B.V.A.S.M., Tsusaka, T.W., Chirapart, A., Salin, R.K., Sasaki, N. (国際共著)

Processes (Switzerland) (査読有), Vol 7(7) , P. 440, 2019.

論文名 : Knowledge, attitude and practice of Malawian farmers on pre- and post- harvest crop management to mitigate aflatoxin contamination in groundnut, maize and sorghum - Implication for behavioral change

著者名 : Seetha, A., Tsusaka, T.W., Njoroge, S.M.C., Kumwenda, N., Kachulu, L., Maruwo, J., Machinjiri, N., Botha, R., Msere, H.W., Masumba, J., Tavares, A., Heinrich, G.M., Siambi, M., Okori, P. (国際共著)

Toxins (Switzerland) (査読有), Vol.11 (12), P. 716, 2019.

論文名 : Reducing child undernutrition through dietary diversification, decreased aflatoxin exposure, and improved hygiene practices: The immediate impacts in Central Tanzania.

著者名 : Seetha, A., Muzanila, Y., Tsusaka, T.W., Kachulu, L., Kumwenda, N., Musoke, M., Elirehema, S., Shija, J., Siambi, M., Monyo, E.S., Mateete, B., Okori, P. (国際共著)

Ecology of Food and Nutrition (査読有), Nov., PP. 1-20, 2019.

論文名 : Acceptance and impact of millet-based mid-day meal on the nutritional status of adolescent school going children in a peri urban region of Karnataka state in India.

著者名 : Anitha, S., Kane-Potaka, J., Tsusaka, T.W., Tripathi, D., Upadhyay, S., Kavishwar, A., Jalagam, A., Sharma, N., Nedumaran, S. (国際共著)

Nutrients (Switzerland)(査読有), Vol.11(9), P. 2077, 2019.

#### [著書]

著 書 : The Bioeconomy Approach: Constraints and Opportunities for Sustainable Development (Nagothu U.S. eds. ), Routridge, 2020.

著者名 : Nagothu, U. S. and Nagano, T.

Chapter 1: The bioeconomy approach and sustainable development: A review of the concept, opportunities and constraints, PP.1-23.

著者名 : Akça, E., Berberoğlu, S., Nagano, T., Kapur, S.

Chapter 8: Mediterranean anthroscapes: A bioeconomy domain for sustainable land use, PP.149-168.

著者名 : Nagano, T., Bando, Y., Okano, Y. Maki, D., Ueyama, T.

Chapter 9: Centrum Woods Vision: Creating new value chains for sustainable woods management in Japan, PP.169-188.

## 5. 関連活動及び特記事項

### (1) 外部資金等

○外部資金名：科学研究費補助金

研究種目：挑戦的研究（萌芽） 平成30年度－平成32年度

代表者名：島村 靖治

研究課題名：新興国における農村フィールド実験と医療データベースを結合した  
政策シミュレーション

受入金額： 3,300,000 円

○外部資金名：科学研究費補助金

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)

平成30年度－平成34年度

代表者名：島村 靖治

研究課題名：インドシナ半島におけるプライマリ・ヘルスケア・システムの  
国際比較研究

受入金額： 7,300,000 円

○外部資金名：「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」  
国際共同若手研究者養成プログラム

代表者名：佐藤希

研究課題名：南インドにおけるダウリー習慣と家庭内暴力  
－自助組織参加者・非参加者の比較分析－

受入金額：1,906,500 円

(2) 受賞 なし

(3) 特論の実施内容 なし

(4) 研究集会の開催（研究プロジェクトの活動と関連の深いものに限る）

研究集会名：国際開発学会・人間の安全保障学会 2019 共催全国大会  
企画セッション

マイクロデータを用いたインフラ事業の実証分析：

インフラ事業は住民に如何なる多様な効果、影響を与えるか

開催日：令和1年1月17日

場所：東京大学駒場キャンパス

研究集会名：国際開発学会・人間の安全保障学会 2019 共催全国大会  
企画セッション

途上国における政策課題のマイクロ実証分析

－ベトナム・インドを事例に－

開催日：令和1年1月17日

場所：東京大学駒場キャンパス

研究会集会名： 第3回バイオエコノミー研究会  
生物多様性ビジネスの最前線

開催日：2019年5月16日

場所：神戸大学農学部

研究集会名：第4回バイオエコノミー研究会

The Bioeconomy Approach :

Constraints and Opportunities for Sustainable Development

開催日：2019年10月31日

場所：神戸大学農学部

研究集会名：第5回バイオエコノミー研究会

日本の森林管理とそれを担う林業事業体の組織マネジメント

開催日：2020年1月24日

場所：神戸大学農学部

研究集会名： Biodiversity Hackathon

開催日： 2019年4月20日

場所： Asian Institute of Technology

研究集会名： Sustainability Hackathon

開催日： 2019年11月16日

場所： Asian Institute of Technology

(5) その他, 研究プロジェクトの活動と関連のある特記事項  
なし